

平成28年度
第7回市政モニターアンケート

暴力団排除について

北九州市市民文化スポーツ局広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	
(1) 「福岡県暴力団排除条例」の認知度	2
(2) 「福岡県暴力団排除条例」の内容の認知度	3
(3) 「北九州市暴力団排除条例」の認知度	4
(4) 「北九州市暴力団排除条例」の内容の認知度	5
(5) 暴力団排除条例に関する市民講演等への参加の意向	6
(6) 暴力団排除条例に関する市民講演等へ参加したくない理由	7
(7) 暴力団排除への関心の程度	8
(8) 暴力団に関する情報の入手方法	9
(9) 暴力団をどのような存在と考えるか	10
(10) 報道の中で暴力団(員)に対する脅威を感じた経験の有無	11
(11) 報道の中で脅威と感じた内容	12
(12) 実生活の中で暴力団(員)に対する脅威を感じた(被害を受けた)経験の有無	13
(13) 実生活の中で脅威と感じた(被害を受けた)内容	14
(14) 暴力団被害に関する相談窓口(相談ダイヤル)の認知度	15
(15) 暴力団を利用してのもめごとの処理についての考え	16
(16) 暴力団対策法の認知度	17
(17) 暴力団員から被害を受けた場合の対応	18
(18) 不当な要求を排除するために必要な環境	19
(19) 暴力団排除に向けて今後必要な行政の施策	20
(20) 市民の暴力団排除意識を高揚させるためのPR方法	21
(21) 行政が主催する暴力追放に関する活動への参加の意向	22
(22) 行政が主催する暴力追放に関する活動へ参加したくない理由	23
(23) 青少年の非行問題と暴力団の関係の認知度	24
(24) 行政が行う青少年に向けた暴力団排除の取組みに対する考え	25
(25) 行政が行う青少年に向けた暴力団排除の取組みに賛成しない理由	26
(26) 暴力追放推進施策に関する意見	27
IV 全体考察	29

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター 148人
回答者数	132人(回収率 89.2%)
調査実施日	平成28年11月1日～平成28年11月16日
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査
調査実施課	市民文化スポーツ局広聴課 Tel582-2527
調査依頼課	市民文化スポーツ局安全・安心相談センター Tel582-2427

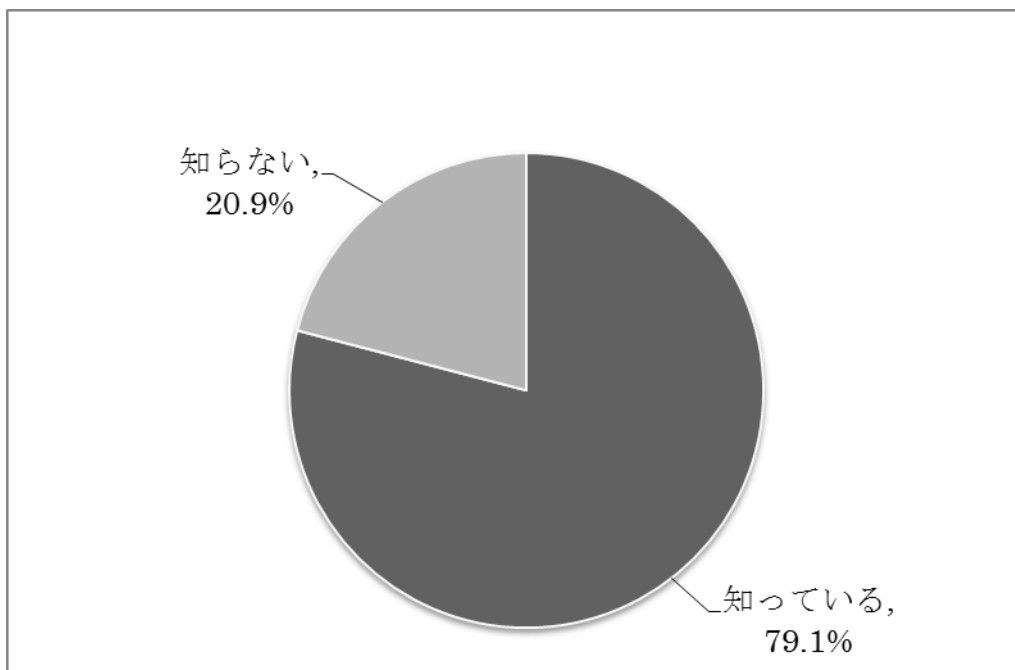
II 市政モニターの構成

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	148 (100.0%)	47 (31.8%)	101 (68.2%)	区 別			
				門司区	16 (10.8%)	5 (3.4%)	11 (7.4%)
20歳代	16 (10.8%)	2 (1.4%)	14 (9.5%)	小倉北区	26 (17.6%)	6 (4.1%)	20 (13.5%)
30歳代	23 (15.5%)	6 (4.1%)	17 (11.5%)	小倉南区	30 (20.3%)	11 (7.4%)	19 (12.8%)
40歳代	28 (18.9%)	5 (3.4%)	23 (15.5%)	若松区	16 (10.8%)	12 (8.1%)	4 (2.7%)
50歳代	20 (13.5%)	7 (4.7%)	13 (8.8%)	八幡東区	12 (8.1%)	2 (1.4%)	10 (6.8%)
60歳代	33 (22.3%)	12 (8.1%)	21 (14.2%)	八幡西区	39 (26.4%)	6 (4.1%)	33 (22.3%)
70歳以上	28 (18.9%)	15 (10.1%)	13 (8.8%)	戸畑区	9 (6.1%)	5 (3.4%)	4 (2.7%)

※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

問1 あなたは平成22年4月に施行された、事業者から暴力団への悪質な利益供与等に対し、全国初の罰則を定めた「福岡県暴力団排除条例」をご存じですか？



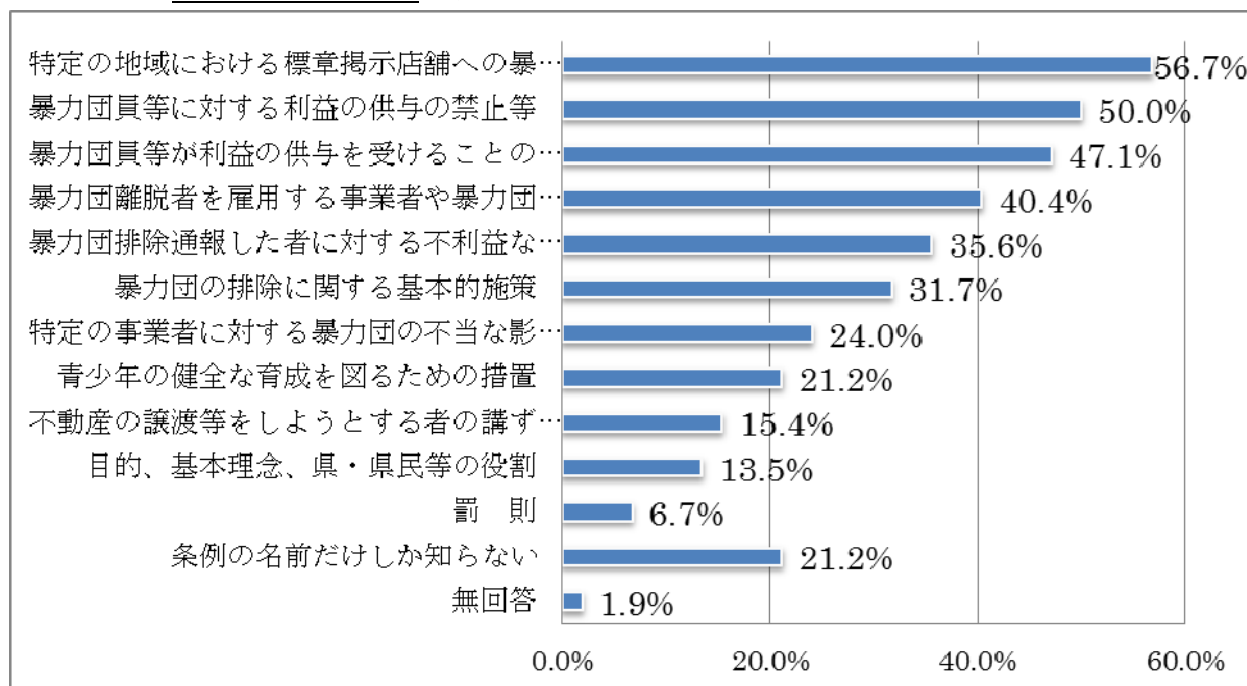
		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		132人	79.1%	20.9%	0.0%
性別	男性	43人	83.7%	16.3%	0.0%
	女性	89人	76.7%	23.3%	0.0%
年齢別	20歳代	13人	76.9%	23.1%	0.0%
	30歳代	19人	83.3%	16.7%	0.0%
	40歳代	24人	66.7%	33.3%	0.0%
	50歳代	18人	72.2%	27.8%	0.0%
	60歳代	30人	80.0%	20.0%	0.0%
	70歳以上	28人	92.3%	7.7%	0.0%
区別	門司区	13人	84.6%	15.4%	0.0%
	小倉北区	24人	75.0%	25.0%	0.0%
	小倉南区	27人	77.8%	22.2%	0.0%
	若松区	13人	92.3%	7.7%	0.0%
	八幡東区	12人	58.3%	41.7%	0.0%
	八幡西区	34人	83.9%	16.1%	0.0%
	戸畑区	9人	77.8%	22.2%	0.0%

福岡県暴力団排除条例の全体の認知度は79.1%であり、前回調査の67.9%から増加した。年齢層別に見ると、70歳以上が92.3%と最も高く、40歳代の認知度が66.7%と最も低くなっている。

<問1で「1 知っている」と答えた方のみご回答ください。>

問2 あなたは福岡県暴力団排除条例の内容について、どの程度ご存知ですか？

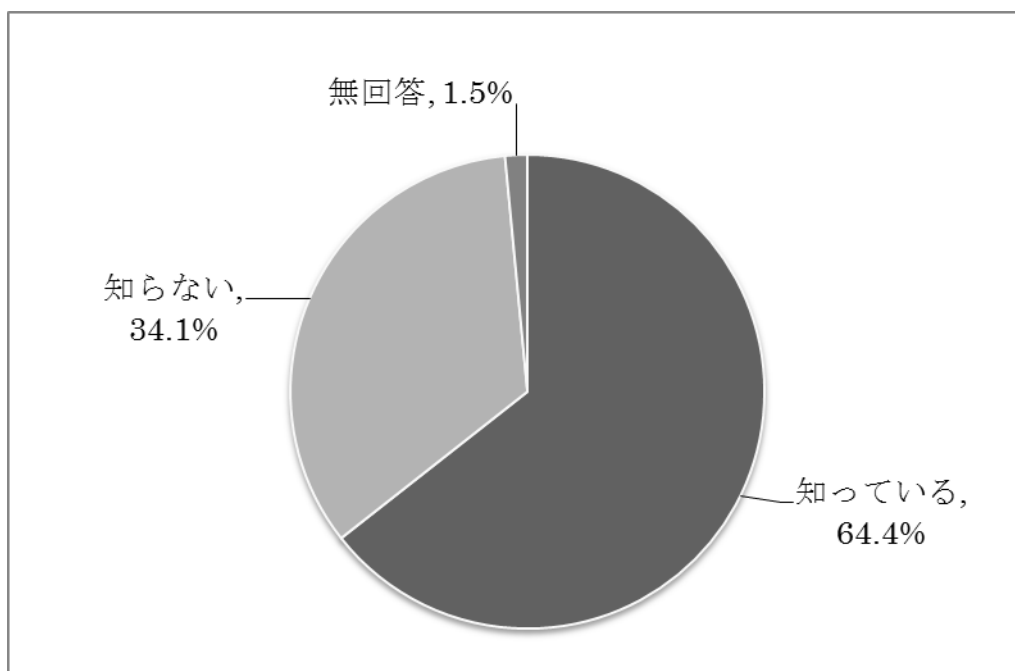
(知っているもの全て選択してください)



	回答者数	特定の地域における標章掲示店舗への暴力団の立入禁止	暴力団員等に対する利益の供与の禁止等	暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等	暴力団離脱者を雇用する事業者や暴力団離脱者に対する雇用や就労の支援等	暴力団排除通報した者に対する不利益な取扱いの禁止	暴力団の排除に関する基本的施策	特定の事業者に対する暴力団の不当な影響を排除するための措置	青少年の健全な育成を図るための措置	不動産の譲渡等をしようとする者の講ずべき措置	目的、基本理念、県・県民等の役割	罰則	条例の名前だけしか知らない	無回答	
全体	104人	56.7%	50.0%	47.1%	40.4%	35.6%	31.7%	24.0%	21.2%	15.4%	13.5%	6.7%	21.2%	1.9%	
性別	男性	36人	69.4%	63.9%	52.8%	38.9%	47.2%	47.2%	30.6%	13.9%	22.2%	8.3%	5.6%	2.8%	
	女性	68人	50.0%	42.6%	44.1%	41.2%	29.4%	23.5%	16.2%	16.2%	8.8%	5.9%	29.4%	1.5%	
年齢別	20歳代	10人	40.0%	40.0%	40.0%	30.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	
	30歳代	16人	43.8%	31.3%	31.3%	18.8%	12.5%	25.0%	12.5%	6.3%	12.5%	12.5%	43.8%	0.0%	
	40歳代	16人	56.3%	37.5%	31.3%	31.3%	50.0%	25.0%	12.5%	6.3%	12.5%	12.5%	25.0%	0.0%	
	50歳代	13人	61.5%	46.2%	30.8%	38.5%	23.1%	46.2%	15.4%	38.5%	30.8%	23.1%	15.4%	0.0%	
	60歳代	24人	58.3%	62.5%	62.5%	54.2%	41.7%	33.3%	41.7%	20.8%	16.7%	4.2%	8.3%	12.5%	4.2%
	70歳以上	25人	68.0%	64.0%	64.0%	52.0%	52.0%	40.0%	24.0%	36.0%	16.0%	28.0%	0.0%	8.0%	4.0%
区別	門司区	11人	72.7%	54.5%	54.5%	36.4%	54.5%	45.5%	36.4%	27.3%	27.3%	18.2%	18.2%	27.3%	0.0%
	小倉北区	18人	38.9%	27.8%	16.7%	33.3%	11.1%	22.2%	22.2%	11.1%	16.7%	5.6%	5.6%	44.4%	5.6%
	小倉南区	21人	71.4%	57.1%	42.9%	47.6%	23.8%	14.3%	9.5%	14.3%	0.0%	4.8%	0.0%	14.3%	0.0%
	若松区	12人	58.3%	50.0%	50.0%	41.7%	58.3%	58.3%	33.3%	58.3%	41.7%	50.0%	8.3%	16.7%	0.0%
	八幡東区	7人	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%
	八幡西区	28人	60.7%	60.7%	71.4%	46.4%	42.9%	42.9%	35.7%	21.4%	14.3%	14.3%	10.7%	10.7%	0.0%
	戸畑区	7人	57.1%	57.1%	42.9%	28.6%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%

福岡県暴力団排除条例の内容に関する認知度は、「特定の地域における標章掲示店舗への暴力団の立入禁止」が56.7%、「暴力団員等に対する利益の供与の禁止等」が50.0%、「暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等」が47.1%で前回と同様の傾向になっている。

問3 あなたは平成22年7月に市が施行した、「北九州市暴力団排除条例」をご存じですか？



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		132人	64.4%	34.1%	1.5%
性別	男性	43人	69.8%	27.9%	2.3%
	女性	89人	61.8%	37.1%	1.1%
年齢別	20歳代	13人	38.5%	61.5%	0.0%
	30歳代	19人	57.9%	42.1%	0.0%
	40歳代	24人	58.3%	41.7%	0.0%
	50歳代	18人	55.6%	44.4%	0.0%
	60歳代	30人	70.0%	26.7%	3.3%
	70歳以上	28人	85.7%	10.7%	3.6%
区別	門司区	13人	53.8%	46.2%	0.0%
	小倉北区	24人	62.5%	37.5%	0.0%
	小倉南区	27人	55.6%	44.4%	0.0%
	若松区	13人	84.6%	15.4%	0.0%
	八幡東区	12人	41.7%	58.3%	0.0%
	八幡西区	34人	76.5%	17.6%	5.9%
	戸畑区	9人	66.7%	33.3%	0.0%

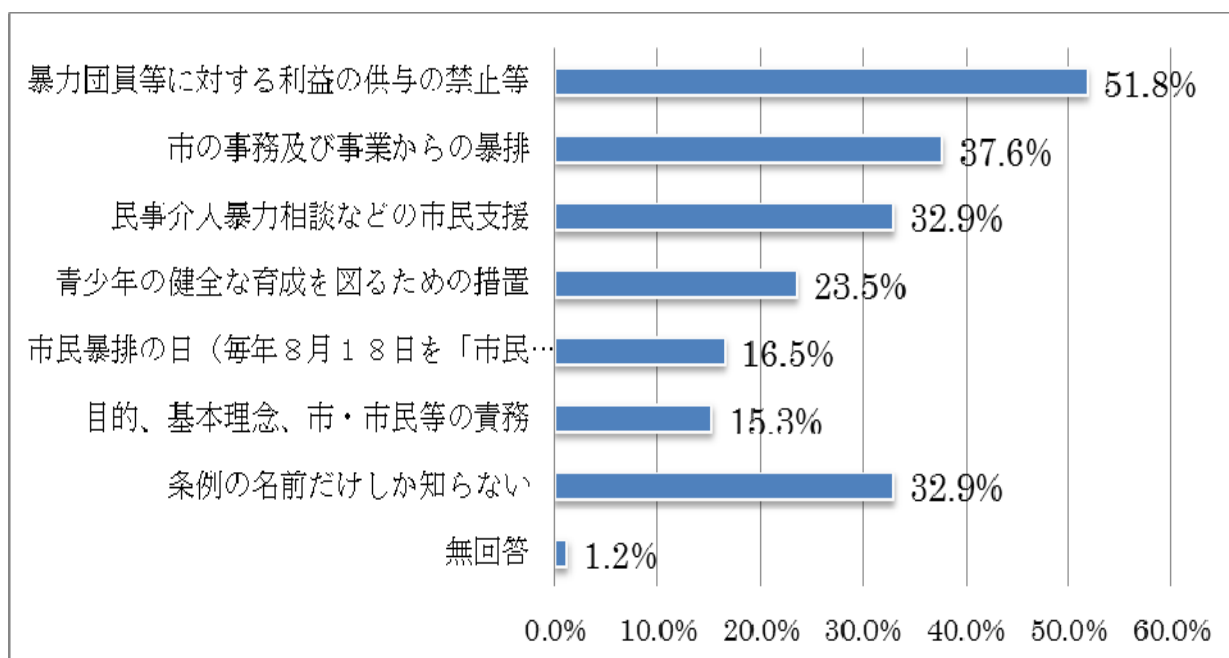
北九州市暴力団排除条例の全体の認知度は、64.4%であり、前回調査の64.9%とほぼ同様であった。

年齢層別に見ると、70歳以上の認知度が最も高く85.7%。20歳代の認知度が38.5%と最も低くなっている。

<問3で「1 知っている」と答えた方のみご回答下さい。>

問4 あなたは北九州市暴力団排除条例の内容について、どの程度ご存知ですか？

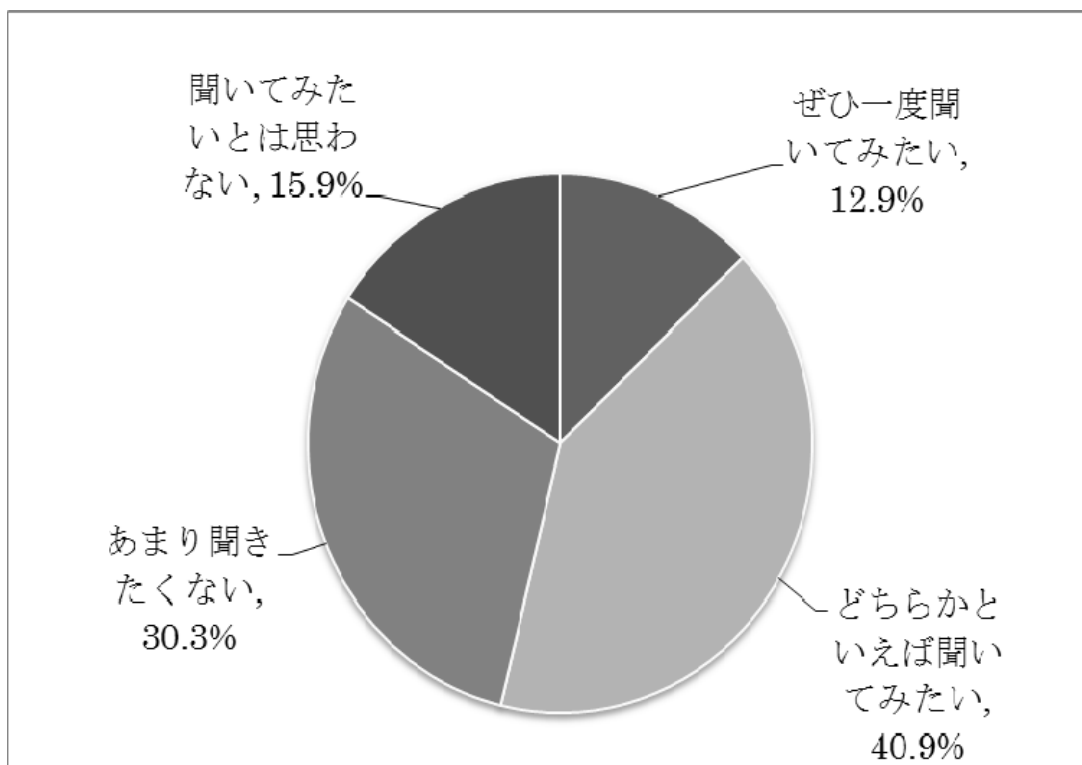
(知っているもの全て選択してください)



	回答者数	暴力団員等に対する利益の供与の禁止等	市の事務及び事業からの暴排	民事介入暴力相談などの市民支援	青少年の健全な育成を図るための措置	市民暴排の日（毎年8月18日を「市民暴排の日」と制定）	目的、基本理念、市・市民等の責務	条例の名前だけしか知らない	無回答	
全体	85人	51.8%	37.6%	32.9%	23.5%	16.5%	15.3%	32.9%	1.2%	
性別	男性	30人	66.7%	63.3%	50.0%	30.0%	26.7%	20.0%	23.3%	3.3%
	女性	55人	43.6%	23.6%	23.6%	20.0%	10.9%	12.7%	38.2%	0.0%
年齢別	20歳代	5人	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%
	30歳代	11人	45.5%	36.4%	18.2%	9.1%	0.0%	18.2%	45.5%	0.0%
	40歳代	14人	42.9%	7.1%	21.4%	7.1%	14.3%	7.1%	42.9%	0.0%
	50歳代	10人	30.0%	50.0%	30.0%	40.0%	20.0%	10.0%	40.0%	0.0%
	60歳代	21人	57.1%	47.6%	42.9%	28.6%	19.0%	9.5%	28.6%	0.0%
	70歳以上	24人	66.7%	45.8%	41.7%	33.3%	25.0%	29.2%	16.7%	4.2%
区別	門司区	7人	71.4%	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%
	小倉北区	15人	26.7%	20.0%	13.3%	6.7%	6.7%	6.7%	60.0%	0.0%
	小倉南区	15人	60.0%	46.7%	26.7%	26.7%	26.7%	6.7%	33.3%	0.0%
	若松区	11人	63.6%	63.6%	63.6%	54.5%	27.3%	45.5%	27.3%	0.0%
	八幡東区	5人	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%
	八幡西区	26人	53.8%	34.6%	38.5%	30.8%	19.2%	15.4%	30.8%	0.0%
	戸畑区	6人	66.7%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%

北九州市暴力団排除条例の内容に関する認知度は、「暴力団員等に対する利益の供与の禁止等」が51.8%、「市の事務及び事業からの暴排」が37.6%、「民事介入暴力相談などの市民支援」が32.9%で、前回と同様の傾向になっている。

問5 あなたは福岡県や北九州市の暴力団排除条例について市民講演などを開催するとした場合、参加して内容を聞いてみたいと思いますか？



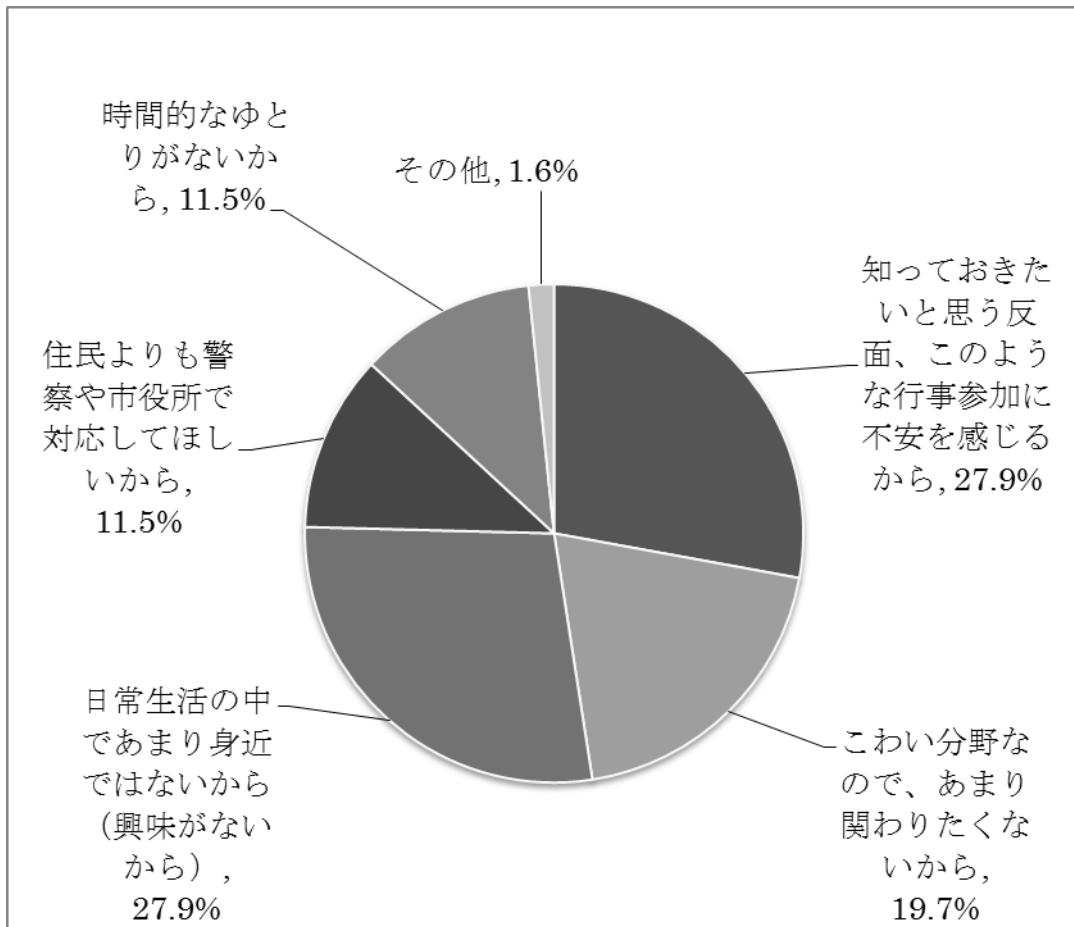
		回答者数	ぜひ一度聞いてみたい	どちらかといえば聞いてみたい	あまり聞きたくない	聞いてみたいとは思わない	無回答
全体		132人	12.9%	40.9%	30.3%	15.9%	0.0%
性別	男性	43人	23.3%	44.2%	18.6%	14.0%	0.0%
	女性	89人	7.9%	39.3%	36.0%	16.9%	0.0%
年齢別	20歳代	13人	7.7%	23.1%	46.2%	23.1%	0.0%
	30歳代	19人	5.3%	36.8%	26.3%	31.6%	0.0%
	40歳代	24人	4.2%	37.5%	37.5%	20.8%	0.0%
	50歳代	18人	5.6%	50.0%	33.3%	11.1%	0.0%
	60歳代	30人	16.7%	43.3%	33.3%	6.7%	0.0%
	70歳以上	28人	28.6%	46.4%	14.3%	10.7%	0.0%
区別	門司区	13人	7.7%	38.5%	30.8%	23.1%	0.0%
	小倉北区	24人	8.3%	45.8%	25.0%	20.8%	0.0%
	小倉南区	27人	14.8%	40.7%	40.7%	3.7%	0.0%
	若松区	13人	23.1%	46.2%	23.1%	7.7%	0.0%
	八幡東区	12人	16.7%	25.0%	16.7%	41.7%	0.0%
	八幡西区	34人	11.8%	41.2%	29.4%	17.6%	0.0%
	戸畑区	9人	11.1%	44.4%	44.4%	0.0%	0.0%

暴力団排除条例についての講演等に対するニーズは、

- 聞いてみたい層 53.8%
- 聞いてみたいと思わない層 46.2%

前回調査の【聞いてみたい層】56.7%、【聞いてみたいと思わない層】43.3%とほぼ同様の傾向となった。

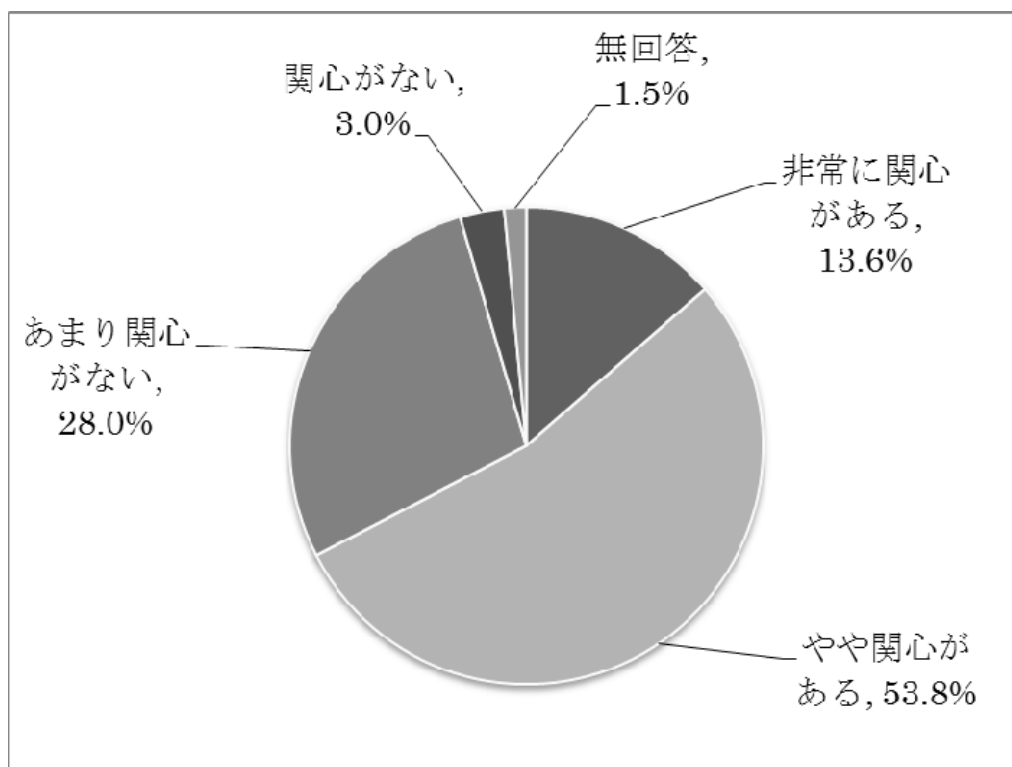
<問5で「3 あまり聞きたくない」「4 聞いてみたいとは思わない」と答えた方のみご回答ください。>
 問6 その理由は何ですか？(主なものを1つ選択してください)



		回答者数	知っておきたいと思う反面、このような行事参加に不安を感じるから	怖い分野なので、あまり関わりたくないから	日常生活の中であまり身近ではないから(興味がないから)	住民よりも警察や市役所で対応してほしいから	時間的なゆとりがないから	その他	無回答
全体		61人	27.9%	19.7%	27.9%	11.5%	11.5%	1.6%	0.0%
性別	男性	14人	28.6%	14.3%	14.3%	28.6%	7.1%	7.1%	0.0%
	女性	47人	27.7%	21.3%	31.9%	6.4%	12.8%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代	9人	11.1%	22.2%	44.4%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	36.4%	18.2%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%
	40歳代	14人	28.6%	14.3%	28.6%	7.1%	14.3%	7.1%	0.0%
	50歳代	8人	25.0%	50.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	12人	50.0%	8.3%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	7人	0.0%	14.3%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%
区別	門司区	7人	28.6%	0.0%	57.1%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%
	小倉北区	11人	18.2%	9.1%	45.5%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%
	小倉南区	12人	58.3%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	4人	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	7人	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%
	八幡西区	16人	18.8%	25.0%	31.3%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	戸畑区	4人	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%

暴力団排除条例についての講演等について、【聞いてみたいと思わない層】の理由としては、このような行事参加に不安を感じたり、怖い分野なので関わりたくないとする【不安層】が、47.6%を占め、次いで「身近ではなく興味がない」27.9%、「警察や市役所で対応してほしい」「時間的なゆとりがない」が11.5%の順となっている。

問7 あなたは暴力団排除について日頃、どの程度関心をお持ちですか？



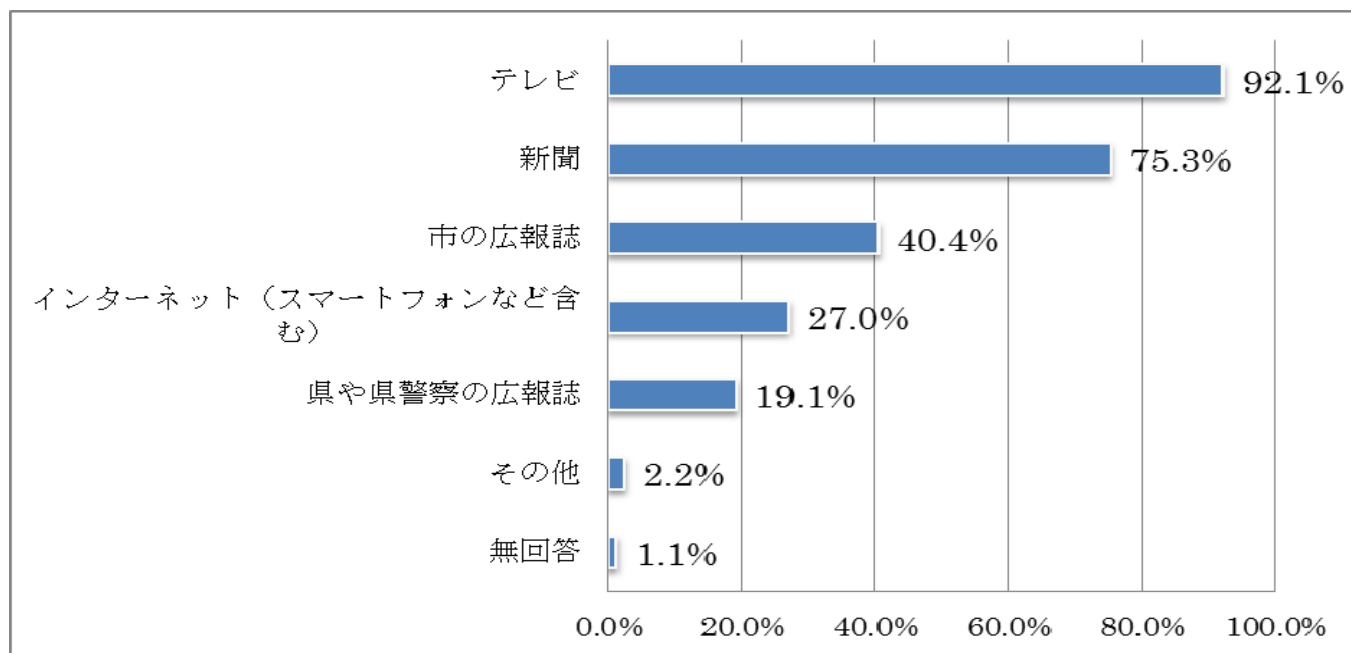
		回答者数	非常に関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答
全体		132人	13.6%	53.8%	28.0%	3.0%	1.5%
性別	男性	43人	20.9%	51.2%	23.3%	2.3%	2.3%
	女性	89人	10.1%	55.1%	30.3%	3.4%	1.1%
年齢別	20歳代	13人	7.7%	38.5%	46.2%	7.7%	0.0%
	30歳代	19人	10.5%	47.4%	31.6%	10.5%	0.0%
	40歳代	24人	8.3%	37.5%	45.8%	4.2%	4.2%
	50歳代	18人	5.6%	61.1%	27.8%	0.0%	5.6%
	60歳代	30人	13.3%	63.3%	23.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上	28人	28.6%	64.3%	7.1%	0.0%	0.0%
区別	門司区	13人	15.4%	38.5%	38.5%	7.7%	0.0%
	小倉北区	24人	16.7%	50.0%	29.2%	4.2%	0.0%
	小倉南区	27人	22.2%	44.4%	25.9%	3.7%	3.7%
	若松区	13人	15.4%	46.2%	38.5%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	0.0%	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	34人	8.8%	64.7%	20.6%	2.9%	2.9%
	戸畑区	9人	11.1%	77.8%	11.1%	0.0%	0.0%

「暴力団排除」に関する関心度については、

- 関心がある層 67.4%
- 関心がない層 31.0%

となり、特に70歳以上が92.9%と非常に関心が高い。

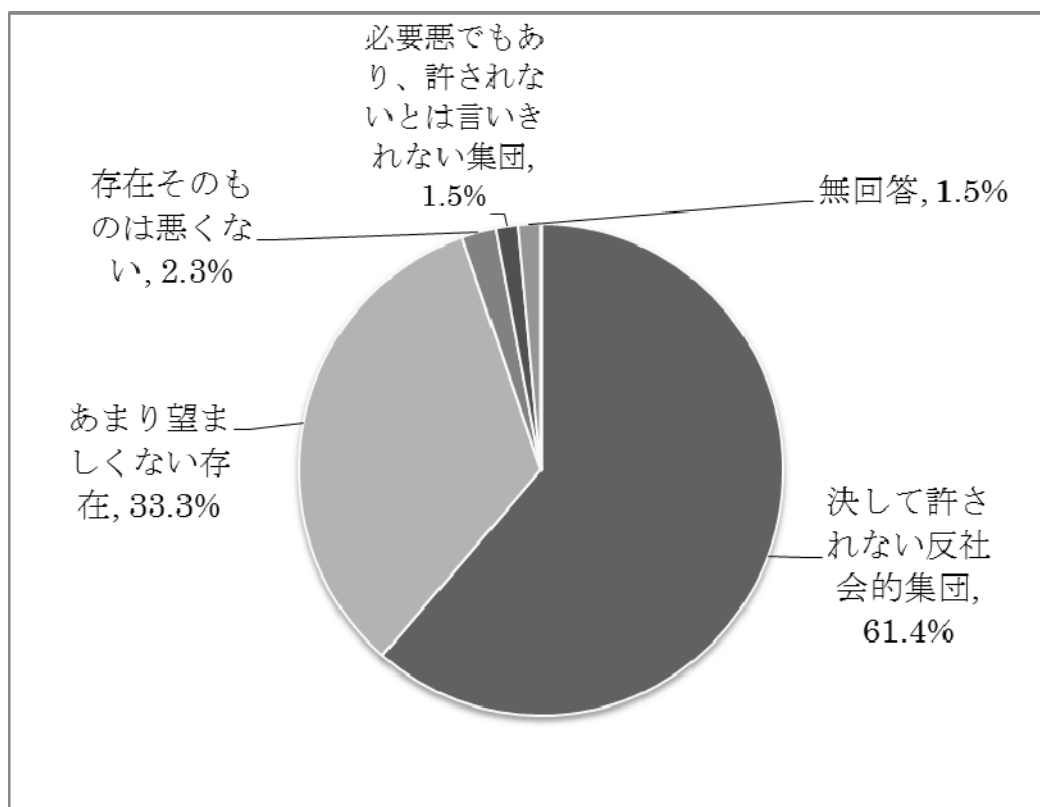
＜問7で「1 非常に興味がある」「2 やや興味がある」と答えた方のみご回答ください。＞
 問8 あなたは暴力団に関する情報を普段どういったメディアから入手していますか？
 （あてはまるものを全て選択してください）



		回答者数	テレビ	新聞	市の広報誌	インターネット (スマートフォンなど含む)	県や県警察の広報誌	その他	無回答
全体		89人	92.1%	75.3%	40.4%	27.0%	19.1%	2.2%	1.1%
性別	男性	31人	93.5%	83.9%	51.6%	38.7%	25.8%	6.5%	0.0%
	女性	58人	91.4%	70.7%	34.5%	20.7%	15.5%	0.0%	1.7%
年齢別	20歳代	6人	83.3%	66.7%	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	81.8%	45.5%	9.1%	54.5%	9.1%	0.0%	9.1%
	40歳代	11人	100.0%	54.5%	36.4%	36.4%	9.1%	0.0%	0.0%
	50歳代	12人	108.3%	75.0%	33.3%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	60歳代	23人	95.7%	87.0%	43.5%	21.7%	17.4%	4.3%	0.0%
	70歳以上	26人	84.6%	88.5%	61.5%	7.7%	30.8%	3.8%	0.0%
区別	門司区	7人	71.4%	57.1%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%
	小倉北区	16人	100.0%	62.5%	25.0%	43.8%	12.5%	0.0%	6.3%
	小倉南区	18人	100.0%	83.3%	50.0%	22.2%	27.8%	5.6%	0.0%
	若松区	8人	87.5%	75.0%	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	7人	71.4%	85.7%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	25人	92.0%	84.0%	52.0%	12.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	8人	100.0%	62.5%	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%

暴力団排除に「関心がある層」の普段の情報の入手元は、「テレビ」92.1%、「新聞」75.3%とマスメディアが大半を占め、次いで「市の広報誌」40.4%と前回調査と同じ傾向になっている。

問9 あなたは現在、暴力団をどのような存在とお考えですか？



		回答者数	決して許されない反社会的集団	あまり望ましくない存在	存在そのものは悪くない	必要悪でもあり、許されないと言いきれない集団	無回答
全体		132人	61.4%	33.3%	2.3%	1.5%	1.5%
性別	男性	43人	62.8%	32.6%	2.3%	2.3%	0.0%
	女性	89人	60.7%	33.7%	2.2%	1.1%	2.2%
年齢別	20歳代	13人	53.8%	30.8%	7.7%	7.7%	0.0%
	30歳代	19人	42.1%	52.6%	5.3%	0.0%	0.0%
	40歳代	24人	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	18人	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	63.3%	33.3%	0.0%	0.0%	3.3%
	70歳以上	28人	71.4%	17.9%	3.6%	3.6%	3.6%
区別	門司区	13人	46.2%	46.2%	0.0%	0.0%	7.7%
	小倉北区	24人	54.2%	37.5%	4.2%	4.2%	0.0%
	小倉南区	27人	70.4%	29.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	13人	76.9%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	34人	58.8%	35.3%	0.0%	2.9%	2.9%
	戸畑区	9人	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%

暴力団に対する認識は、

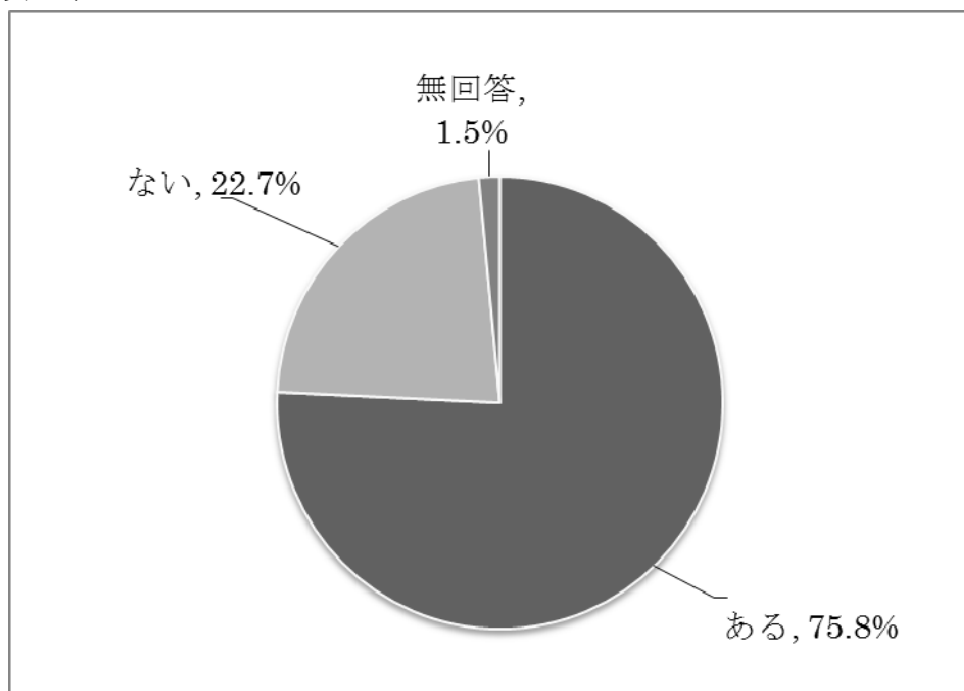
○ 決して許されない反社会的集団 61.4%

○ あまり望ましくない存在 33.3%

と94.7%の方が「否定的」である。

なお「必要悪でもあり許されないと言いきれない」、「存在そのものは悪くない」との回答は合わせて全体の3.8%（前回4.5%）ある。

問10 あなたは「これまでのテレビ・新聞などの報道」の中で、暴力団(員)に対する脅威を感じたことがありますか？

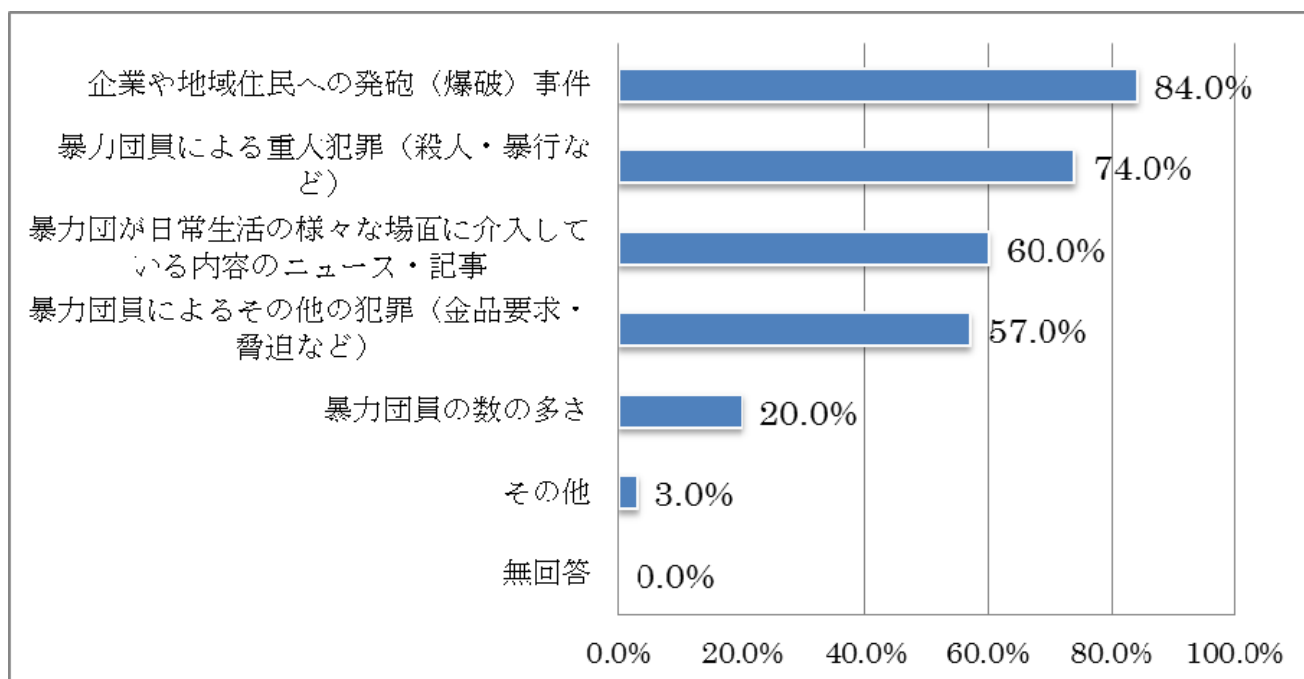


		回答者数	ある	ない	無回答
全体		132人	75.8%	22.7%	1.5%
性別	男性	43人	60.5%	37.2%	2.3%
	女性	89人	83.1%	15.7%	1.1%
年齢別	20歳代	13人	69.2%	30.8%	0.0%
	30歳代	19人	84.2%	15.8%	0.0%
	40歳代	24人	79.2%	20.8%	0.0%
	50歳代	18人	77.8%	22.2%	0.0%
	60歳代	30人	83.3%	16.7%	0.0%
	70歳以上	28人	60.7%	32.1%	7.1%
区別	門司区	13人	84.6%	7.7%	7.7%
	小倉北区	24人	75.0%	25.0%	0.0%
	小倉南区	27人	81.5%	18.5%	0.0%
	若松区	13人	61.5%	38.5%	0.0%
	八幡東区	12人	58.3%	33.3%	8.3%
	八幡西区	34人	79.4%	20.6%	0.0%
	戸畑区	9人	77.8%	22.2%	0.0%

「報道」を通じた暴力団(員)に対する脅威は、75.8%の回答者が感じている。
また、性別で見ると、男性60.5%に対し、女性83.1%と男性よりも女性が脅威を感じている結果となった。

<問10で「1 ある」と答えた方のみご回答ください。>

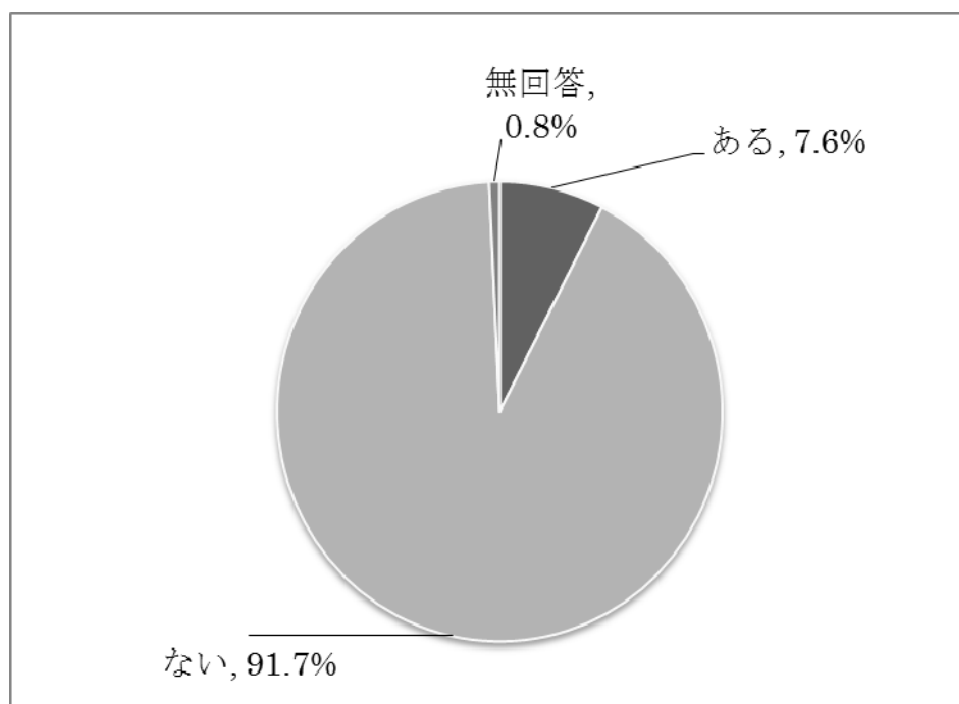
問11 あなたが脅威と感じたことは何ですか？(複数回答可)



		回答者数	企業や地域住民への発砲(爆破)事件	暴力団員による重大犯罪(殺人・暴行など)	暴力団が日常生活の様々な場面に介入している内容のニュース・記事	暴力団員によるその他の犯罪(金品要求・脅迫など)	暴力団員の数の多さ	その他	無回答
全体		100人	84.0%	74.0%	60.0%	57.0%	20.0%	3.0%	0.0%
性別	男性	26人	76.9%	73.1%	61.5%	73.1%	23.1%	3.8%	0.0%
	女性	74人	86.5%	74.3%	59.5%	51.4%	18.9%	2.7%	0.0%
年齢別	20歳代	9人	77.8%	88.9%	55.6%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	16人	81.3%	68.8%	56.3%	37.5%	18.8%	0.0%	0.0%
	40歳代	19人	84.2%	52.6%	52.6%	52.6%	5.3%	5.3%	0.0%
	50歳代	14人	100.0%	85.7%	64.3%	64.3%	35.7%	7.1%	0.0%
	60歳代	25人	76.0%	84.0%	76.0%	64.0%	16.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	17人	88.2%	70.6%	47.1%	58.8%	23.5%	5.9%	0.0%
区別	門司区	11人	72.7%	54.5%	45.5%	54.5%	18.2%	9.1%	0.0%
	小倉北区	18人	83.3%	72.2%	72.2%	38.9%	11.1%	0.0%	0.0%
	小倉南区	22人	90.9%	63.6%	50.0%	59.1%	13.6%	9.1%	0.0%
	若松区	8人	100.0%	87.5%	62.5%	87.5%	25.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	7人	71.4%	85.7%	85.7%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%
	八幡西区	27人	88.9%	77.8%	66.7%	63.0%	25.9%	0.0%	0.0%
	戸畑区	7人	57.1%	100.0%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%

報道の中で暴力団を脅威と感じた回答者について、その内容を見ると、84.0%が「企業や地域住民への発砲(爆破)事件」を選択している。次いで、「暴力団員による重大犯罪(殺人・暴行など)」が74.0%となっており、前回調査と同じ傾向になっている。

問12 あなたは「最近5年間の実生活」の中で、暴力団(員)に対する脅威を感じた(もしくは暴力団員からの被害を受けた)ことがありますか？

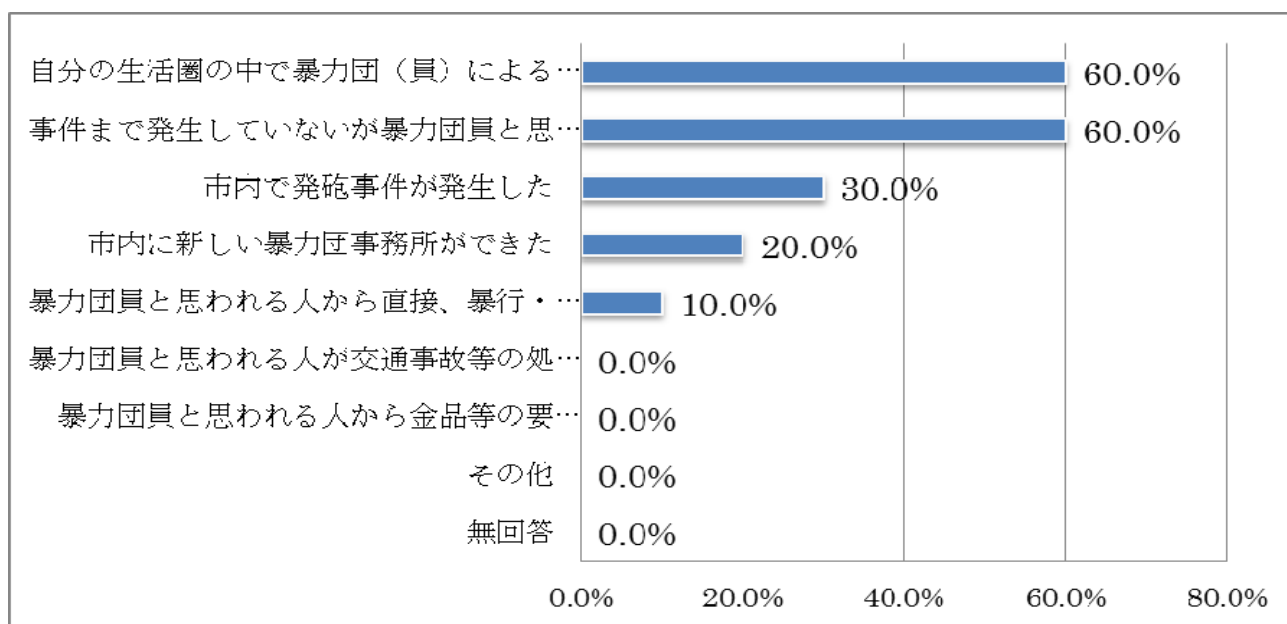


		回答者数	ある	ない	無回答
全体		132人	7.6%	91.7%	0.8%
性別	男性	43人	7.0%	93.0%	0.0%
	女性	89人	7.9%	91.0%	1.1%
年齢別	20歳代	13人	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	19人	26.3%	73.7%	0.0%
	40歳代	24人	8.3%	91.7%	0.0%
	50歳代	18人	11.1%	88.9%	0.0%
	60歳代	30人	0.0%	100.0%	0.0%
	70歳以上	28人	3.6%	92.9%	3.6%
区別	門司区	13人	7.7%	84.6%	7.7%
	小倉北区	24人	16.7%	83.3%	0.0%
	小倉南区	27人	7.4%	92.6%	0.0%
	若松区	13人	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	12人	8.3%	91.7%	0.0%
	八幡西区	34人	2.9%	97.1%	0.0%
	戸畑区	9人	11.1%	88.9%	0.0%

「実生活」の中での暴力団に対する脅威は、「ない」の回答が、前回調査の80.6%から91.7%に増加し、「ある」の回答が前回調査の19.4%から7.6%に減少している。

<問12で「1 ある」と答えた方のみご回答ください。>

問13 あなたが脅威と感じた(もしくは被害を受けた)ことは何ですか？(複数回答可)



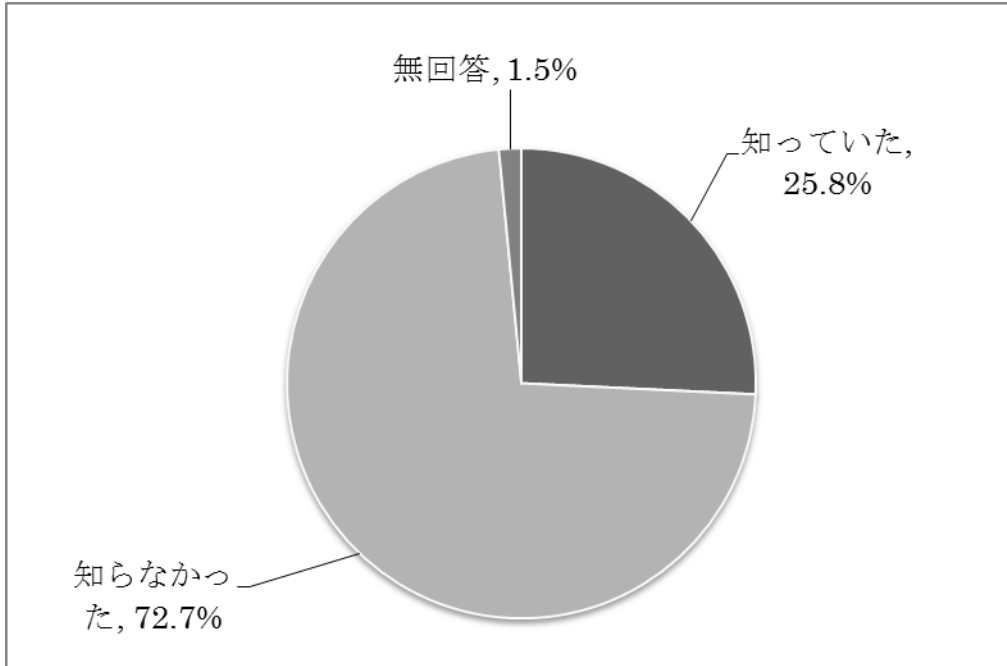
		回答者数	自分の生活圏の中で暴力団(員)による事件が発生した	事件まで発生していないが暴力団員と思われる人が生活圏の中にいた	市内で発砲事件が発生した	市内に新しい暴力団事務所ができた	暴力団員と思われる人から直接、暴行・脅迫等の被害を受けた	暴力団員と思われる人が交通事故等の処理での相手となった	暴力団員と思われる人から金品等の要求、その他の不当な要求を受けた	その他	無回答
全体		10人	60.0%	60.0%	30.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
性別	男性	3人	33.3%	30.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	7人	71.4%	30.0%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	5人	22.2%	16.7%	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	2人	8.3%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	2人	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	1人	0.0%	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	1人	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	4人	8.3%	8.3%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	2人	7.4%	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	1人	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	1人	0.0%	3.1%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	1人	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

実生活の中で暴力団を脅威と感じた回答者について、その内容(複数回答)を見ると、「自分の生活圏の中で暴力団(員)による事件が発生した」、「事件まで発生していないが暴力団員と思われる人が生活圏の中にいた」がいずれも60.0%であった。

また、回答者数については、前回調査の26人から10人に減少している。

問14 あなた自身が暴力団員等から被害を受けた場合や受けるおそれがある場合の専門相談窓口として現在、

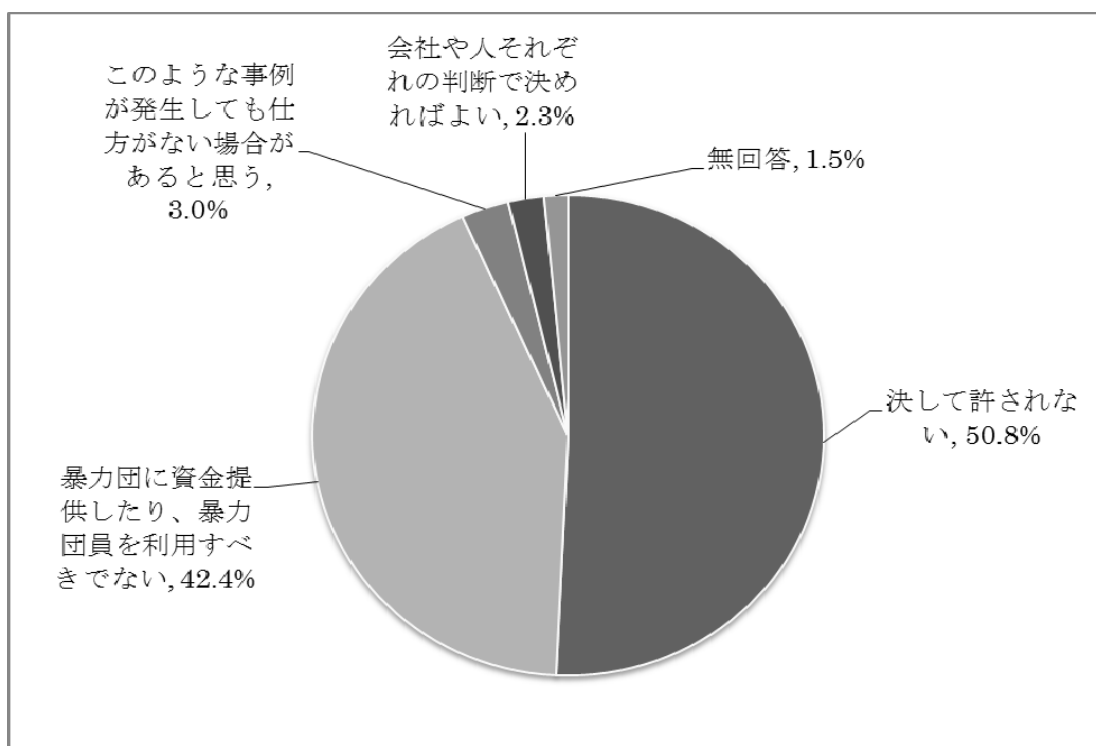
- 北九州市安全・安心相談センター(電話582-2140(ツイホー))【北九州市】
 - 暴力追放ダイヤル(電話582-8930(ヤクザゼロ))【福岡県警察本部(北九州)】
 - 暴力追放ダイヤル(電話092-622-0704)【福岡県警察本部(福岡)】
 - 福岡県暴力追放運動推進センター(電話092-651-8938)
- などがありますが、このような相談窓口(相談ダイヤル)をご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		132人	25.8%	72.7%	1.5%
性別	男性	43人	39.5%	60.5%	0.0%
	女性	89人	19.1%	78.7%	2.3%
年齢別	20歳代	13人	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	19人	15.8%	84.2%	0.0%
	40歳代	24人	12.5%	83.3%	4.2%
	50歳代	18人	38.9%	61.1%	0.0%
	60歳代	30人	33.3%	66.7%	0.0%
	70歳以上	28人	39.3%	57.1%	3.7%
区別	門司区	13人	15.4%	76.9%	7.7%
	小倉北区	24人	20.8%	79.2%	0.0%
	小倉南区	27人	22.2%	74.1%	3.7%
	若松区	13人	46.2%	53.8%	0.0%
	八幡東区	12人	8.3%	91.7%	0.0%
	八幡西区	34人	32.4%	67.6%	0.0%
	戸畑区	9人	33.3%	66.7%	0.0%

「北九州市 安全・安心相談センター」や「福岡県警察 暴力追放ダイヤル」等の認知度は、25.8% (前回調査26.9%) であった。

問15 あなたは、例えば会社や個人が、暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用して、もめごとの処理を行ったりするような行為について、どう考えますか？



		回答者数	決して許されない	暴力団に資金提供したり、暴力団員を利用すべきでない	このような事例が発生しても仕方がない場合があると思う	会社や人それぞれの判断で決めればよい	無回答
全体		132人	50.8%	42.4%	3.0%	2.3%	1.5%
性別	男性	43人	58.1%	30.2%	9.3%	2.3%	0.0%
	女性	89人	47.2%	48.3%	0.0%	2.2%	2.2%
年齢別	20歳代	13人	38.5%	53.8%	0.0%	7.7%	0.0%
	30歳代	19人	52.6%	47.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	24人	37.5%	50.0%	8.3%	4.2%	0.0%
	50歳代	18人	61.1%	33.3%	5.6%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	60.0%	36.7%	3.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上	28人	50.0%	39.3%	0.0%	3.6%	7.1%
区別	門司区	13人	38.5%	46.2%	7.7%	0.0%	7.7%
	小倉北区	24人	66.7%	25.0%	4.2%	4.2%	0.0%
	小倉南区	27人	59.3%	29.6%	7.4%	3.7%	0.0%
	若松区	13人	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	33.3%	58.3%	0.0%	8.3%	0.0%
	八幡西区	34人	38.2%	58.8%	0.0%	0.0%	2.9%
	戸畑区	9人	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%

会社や個人で、暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用して、もめごとの処理を行うことに対しては、「決して許されない」「暴力団に資金提供したり、暴力団員を利用すべきでない」とする「否定層」が、前回調査の91.8%から93.2%へ若干増加した。

なお、「このような事例が発生しても仕方がない場合があると思う」との回答は、前回調査の4.5%から3.0%へ減少した。

問16 暴力団対策法(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律)では、指定暴力団の構成員が、

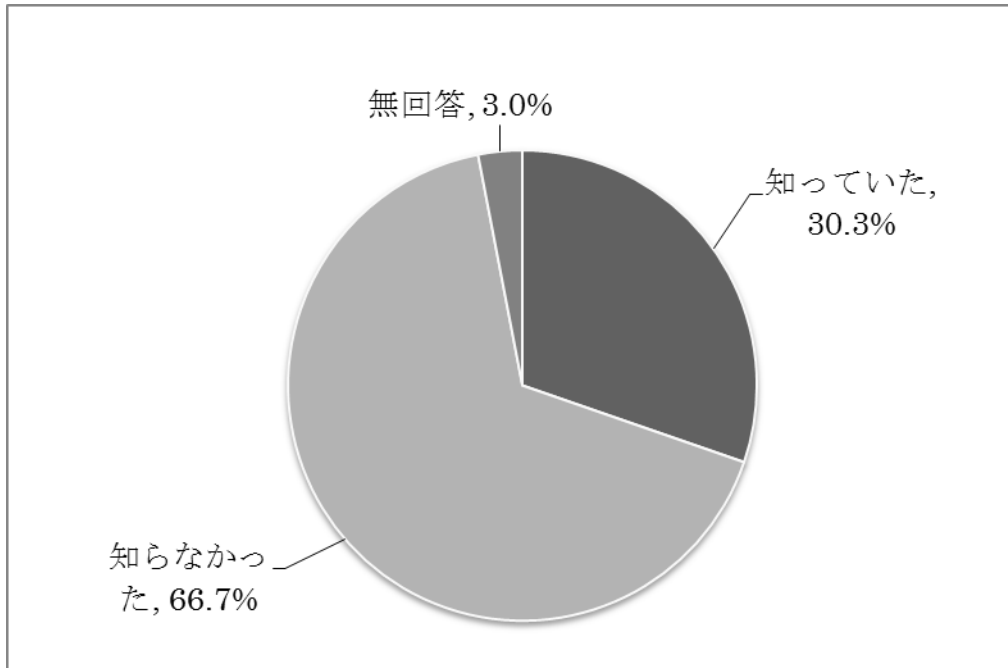
「人の弱みにつけ込んで口止め料を要求する行為」

「交通事故等の示談に介入し、金品等を要求する行為」

「買った商品や受けたサービスの欠陥に因縁をつけて金品等を要求する行為」

など27の行為が禁止され、繰り返し行われるおそれがある場合には、公安委員会または警察署から「中止命令」(従わない場合は逮捕等)を発出できることとなっています。

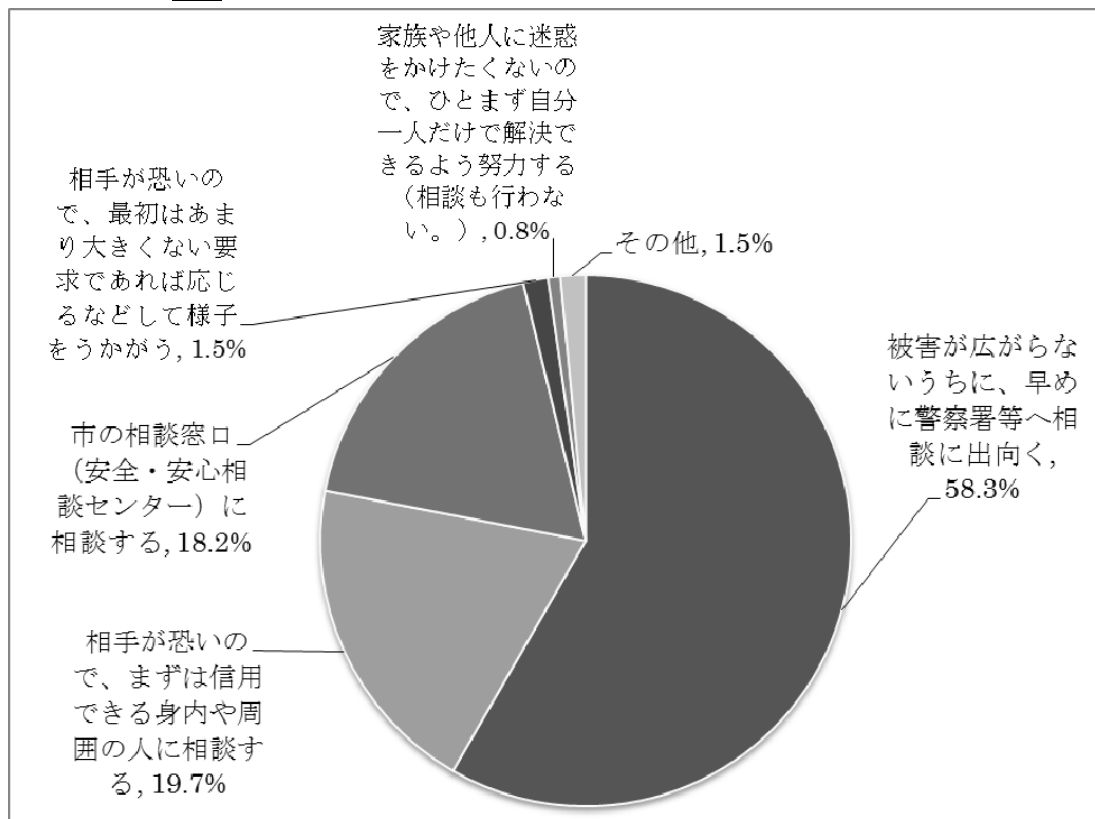
あなたはこのような制度をご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		132人	30.3%	66.7%	3.0%
性別	男性	43人	46.5%	48.8%	4.7%
	女性	89人	22.5%	75.3%	2.2%
年齢別	20歳代	13人	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	19人	5.3%	94.7%	0.0%
	40歳代	24人	25.0%	75.0%	0.0%
	50歳代	18人	27.8%	72.2%	0.0%
	60歳代	30人	36.7%	63.3%	0.0%
	70歳以上	28人	60.7%	25.0%	14.3%
区別	門司区	13人	15.4%	76.9%	7.7%
	小倉北区	24人	16.7%	83.3%	0.0%
	小倉南区	27人	29.6%	70.4%	0.0%
	若松区	13人	46.2%	46.2%	7.7%
	八幡東区	12人	16.7%	75.0%	8.3%
	八幡西区	34人	41.2%	55.9%	2.9%
	戸畑区	9人	44.4%	55.6%	0.0%

暴力団対策法(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律)に規定された「中止命令」についての認知度は、30.3%であった。

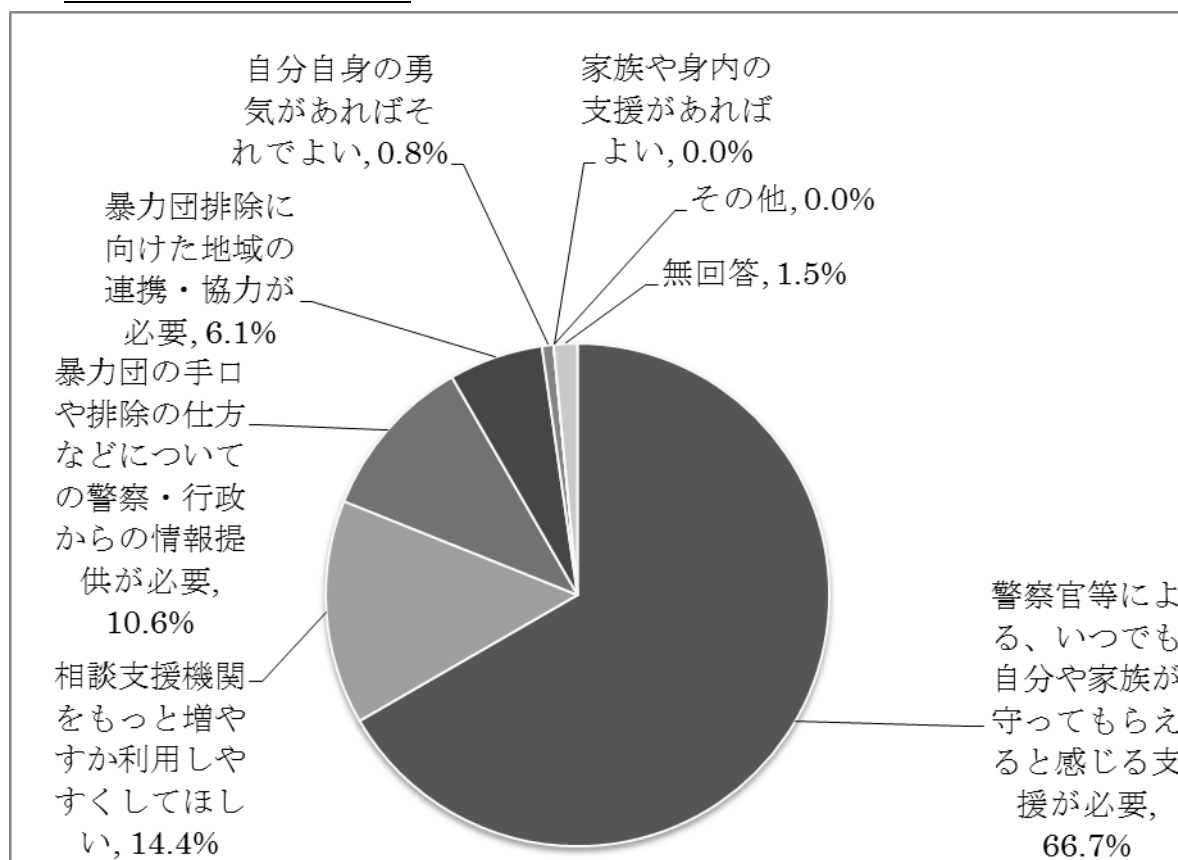
問17 「問16」のような制度が有効に機能するためには、まずは暴力団員から被害を受けた、もしくは受けそうな方が勇気をもって警察署等へ相談することが必要となりますが、あなたがそのような事例に巻き込まれた場合、まずはどのように行動されますか。
(次の中から1つ選択してください)



		回答者数	被害が広がらないうちに、早めに警察署等へ相談に出向く	相手が恐いのので、まずは信用できる身内や周囲の人に相談する	市の相談窓口（安全・安心相談センター）に相談する	相手が恐いのので、最初はあまり大きくない要求であれば応じるなどして様子うかがう	家族や他人に迷惑をかけたくないので、ひとまず自分一人だけで解決できるように努力する（相談も行わない。）、	その他	無回答
全体		132人	58.3%	19.7%	18.2%	1.5%	0.8%	1.5%	0.0%
性別	男性	43人	69.8%	9.3%	14.0%	2.3%	2.3%	2.3%	0.0%
	女性	89人	52.8%	24.7%	20.2%	1.1%	0.0%	1.1%	0.0%
年齢別	20歳代	13人	46.2%	38.5%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	47.4%	31.6%	15.8%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%
	40歳代	24人	58.3%	33.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	18人	66.7%	22.2%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	60.0%	6.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	28人	64.3%	3.6%	25.0%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%
区別	門司区	13人	69.2%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%
	小倉北区	24人	45.8%	33.3%	20.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	27人	63.0%	14.8%	18.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	13人	53.8%	23.1%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	33.3%	41.7%	16.7%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%
	八幡西区	34人	61.8%	11.8%	23.5%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%
	戸畑区	9人	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

暴力団員から被害を受けた、もしくは受けそうな場合に、まずはとる行動として、「被害が広がらないうちに早めに警察署等へ相談に出向く」と「市の相談窓口（安全・安心相談センター）に相談する」が合わせて76.5%と、公的機関へ相談する回答が一番多い結果となった。

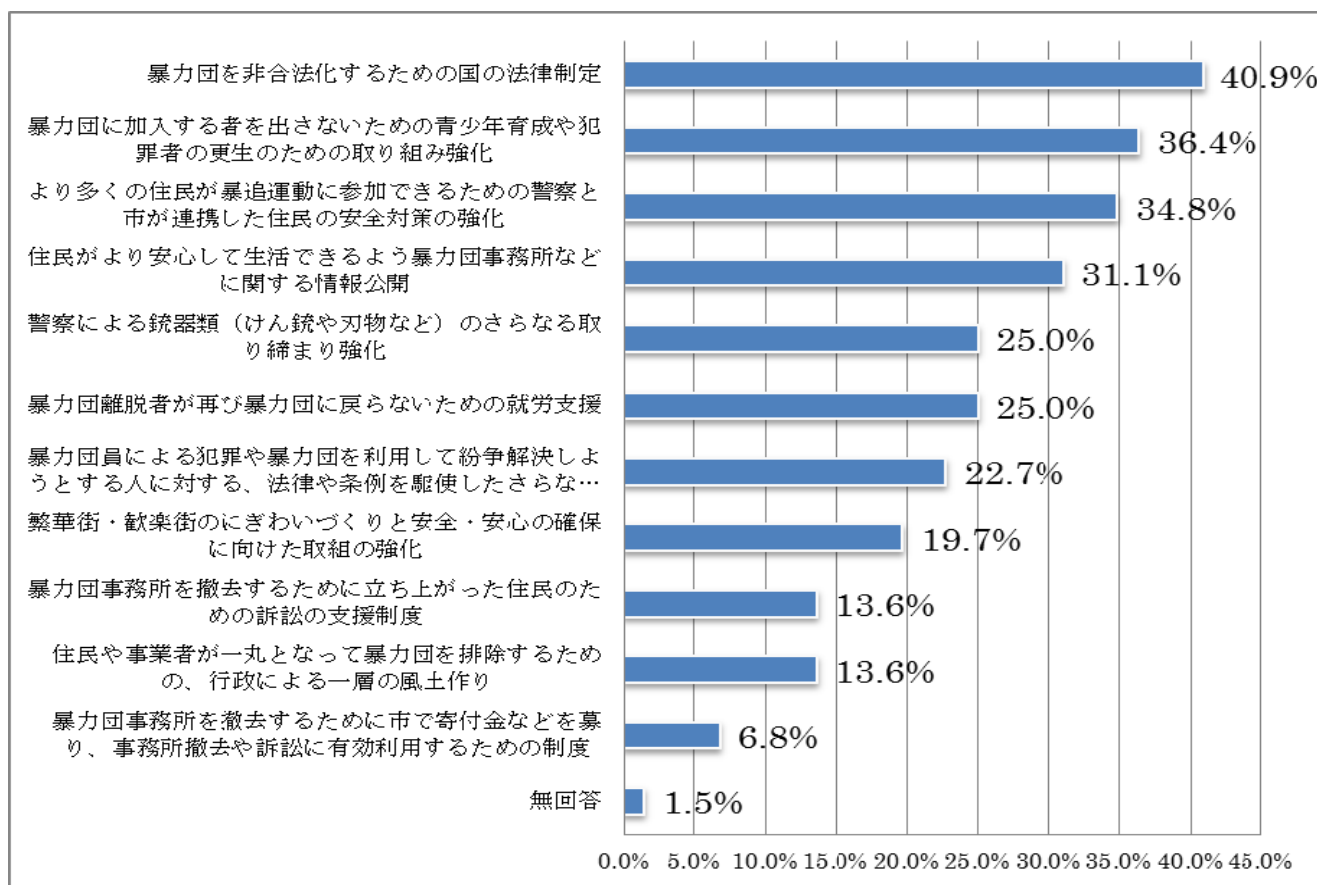
問18 あなた自身が暴力団員等から不当な要求などを受けた場合に、勇気をもって排除することができる環境として、今以上に必要なものは何だとお考えですか？
 (一番必要だと思うものを1つ選択してください。)



	回答者数	警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援が必要	相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい	暴力団の手法や排除の仕方などについての警察・行政からの情報提供が必要	暴力団排除に向けた地域の連携・協力が必要	自分自身の勇気があればそれでよい	家族や身内の支援があればよい	その他	無回答
全体	132人	66.7%	14.4%	10.6%	6.1%	0.8%	0.0%	0.0%	1.5%
性別	男性	43人	69.8%	7.0%	7.0%	11.6%	2.3%	0.0%	2.3%
	女性	89人	65.2%	18.0%	12.4%	3.4%	0.0%	0.0%	1.1%
年齢別	20歳代	13人	84.6%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	63.2%	21.1%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	24人	62.5%	20.8%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	18人	66.7%	11.1%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	70.0%	13.3%	6.7%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	28人	60.7%	10.7%	7.1%	10.7%	3.6%	0.0%	0.0%
区別	門司区	13人	69.2%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%
	小倉北区	24人	66.7%	12.5%	8.3%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	27人	81.5%	7.4%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	13人	53.8%	30.8%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	75.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%
	八幡西区	34人	52.9%	20.6%	17.6%	5.9%	2.9%	0.0%	0.0%
	戸畑区	9人	77.8%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

自身が暴力団員等から不当な要求などを受けた場合に、勇気をもって排除することができる環境として今以上に必要なものは、「警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援」のみが半数以上の66.7%を占めた。次いで「相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい」との回答が14.4%と、前回調査と同じ傾向であった。

問19 あなたは暴力団排除に向けた行政の施策として、今後、特に必要と考えるものは次のうちどれですか？(特に必要だと思うものを3つまで選択してください)

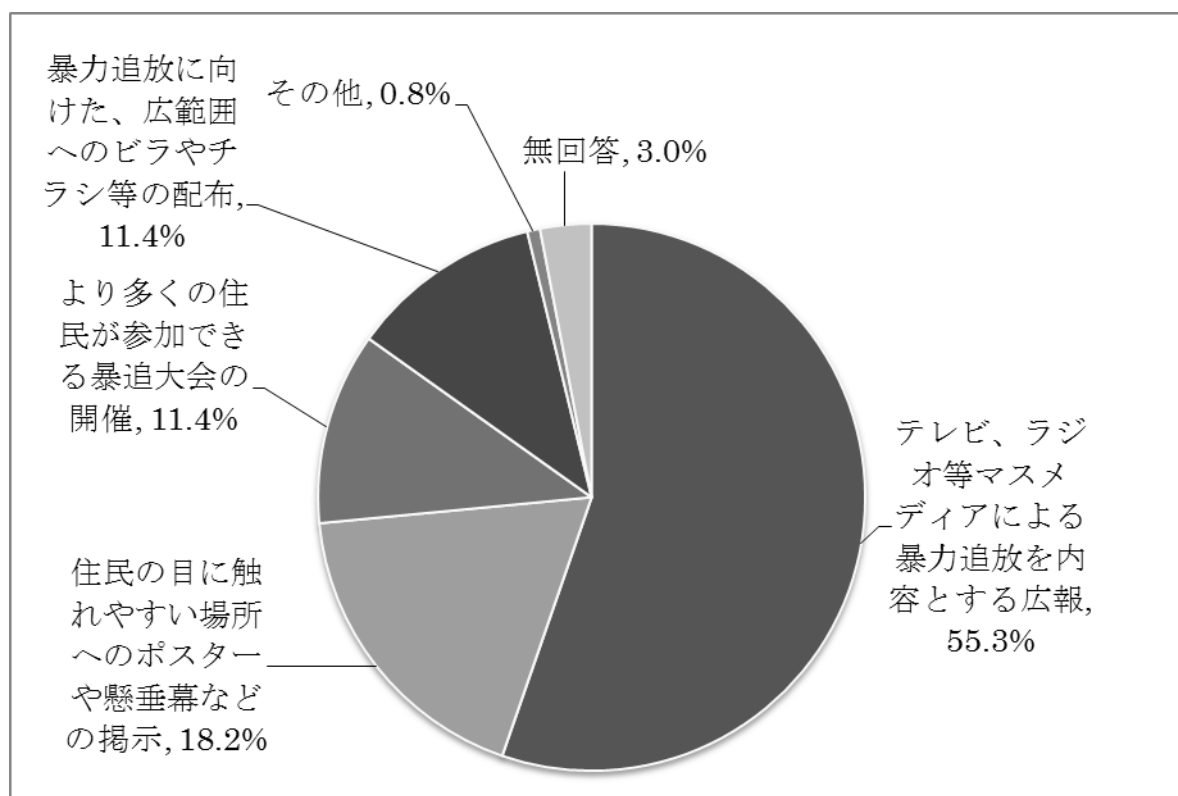


	回答者数	暴力団を非合法化するための国の法律制定	暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の更生のための取り組み強化	より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した住民の安全対策の強化	住民がより安心して生活できるよう暴力団事務所などに関する情報公開	警察による銃器類(けん銃や刃物など)のさらなる取り締まり強化	暴力団離脱者が再び暴力団に戻らないための就労支援	暴力団員による犯罪や暴力団を利用して紛争解決しようとする人に対する、法律や条例を駆使したさらなる罰則強化	繁華街・歓楽街のにぎわいづくりと安全・安心の確保に向けた取組の強化	暴力団事務所を撤去するために立ち上がった住民のための訴訟の支援制度	住民や事業者が一丸となって暴力団を排除するための、行政による一層の風土作り	暴力団事務所を撤去するために市で寄付金などを募り、事務所撤去や訴訟に有効利用するための制度	無回答	
全体	132人	40.9%	36.4%	34.8%	31.1%	25.0%	25.0%	22.7%	19.7%	13.6%	13.6%	6.8%	1.5%	
性別	男性	43人	53.5%	23.3%	39.5%	30.2%	23.3%	20.9%	25.6%	23.3%	14.0%	4.7%	9.3%	2.3%
	女性	89人	34.8%	42.7%	32.6%	31.5%	25.8%	27.0%	21.3%	18.0%	13.5%	18.0%	5.6%	1.1%
年齢別	20歳代	13人	61.5%	23.1%	30.8%	23.1%	53.8%	15.4%	30.8%	7.7%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%
	30歳代	19人	26.3%	26.3%	21.1%	42.1%	10.5%	21.1%	42.1%	26.3%	15.8%	10.5%	15.8%	0.0%
	40歳代	24人	41.7%	29.2%	37.5%	54.2%	33.3%	12.5%	20.8%	16.7%	12.5%	8.3%	4.2%	0.0%
	50歳代	18人	38.9%	44.4%	33.3%	22.2%	11.1%	22.2%	16.7%	27.8%	11.1%	38.9%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	40.0%	43.3%	33.3%	13.3%	33.3%	33.3%	16.7%	26.7%	13.3%	10.0%	6.7%	3.3%
	70歳以上	28人	42.9%	42.9%	46.4%	32.1%	14.3%	35.7%	17.9%	10.7%	21.4%	7.1%	7.1%	3.6%
区別	門司区	13人	15.4%	23.1%	15.4%	15.4%	23.1%	30.8%	38.5%	23.1%	30.8%	15.4%	15.4%	7.7%
	小倉北区	24人	50.0%	29.2%	33.3%	37.5%	20.8%	20.8%	20.8%	8.3%	12.5%	0.0%	0.0%	
	小倉南区	27人	55.6%	40.7%	37.0%	29.6%	29.6%	25.9%	14.8%	22.2%	0.0%	14.8%	3.7%	0.0%
	若松区	13人	38.5%	38.5%	46.2%	38.5%	23.1%	7.7%	46.2%	0.0%	30.8%	7.7%	7.7%	0.0%
	八幡東区	12人	33.3%	50.0%	25.0%	33.3%	25.0%	33.3%	0.0%	25.0%	25.0%	16.7%	8.3%	0.0%
	八幡西区	34人	35.3%	38.2%	38.2%	32.4%	23.5%	32.4%	23.5%	14.7%	11.8%	14.7%	5.9%	2.9%
	戸畑区	9人	44.4%	33.3%	44.4%	22.2%	33.3%	11.1%	22.2%	44.4%	11.1%	11.1%	22.2%	0.0%

暴力団排除に向けた施策ニーズは、「国の法整備」が40.9%と前回同様の1位。

次いで「暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の更生のための取り組み強化」が36.4%で、前回同様の2位となった。

問20 あなたを含めた市民の皆様が、今後、より暴力団排除意識を高揚させるためには、どのようなPR手法が有効とお考えですか？(次の中から1つ選択してください)

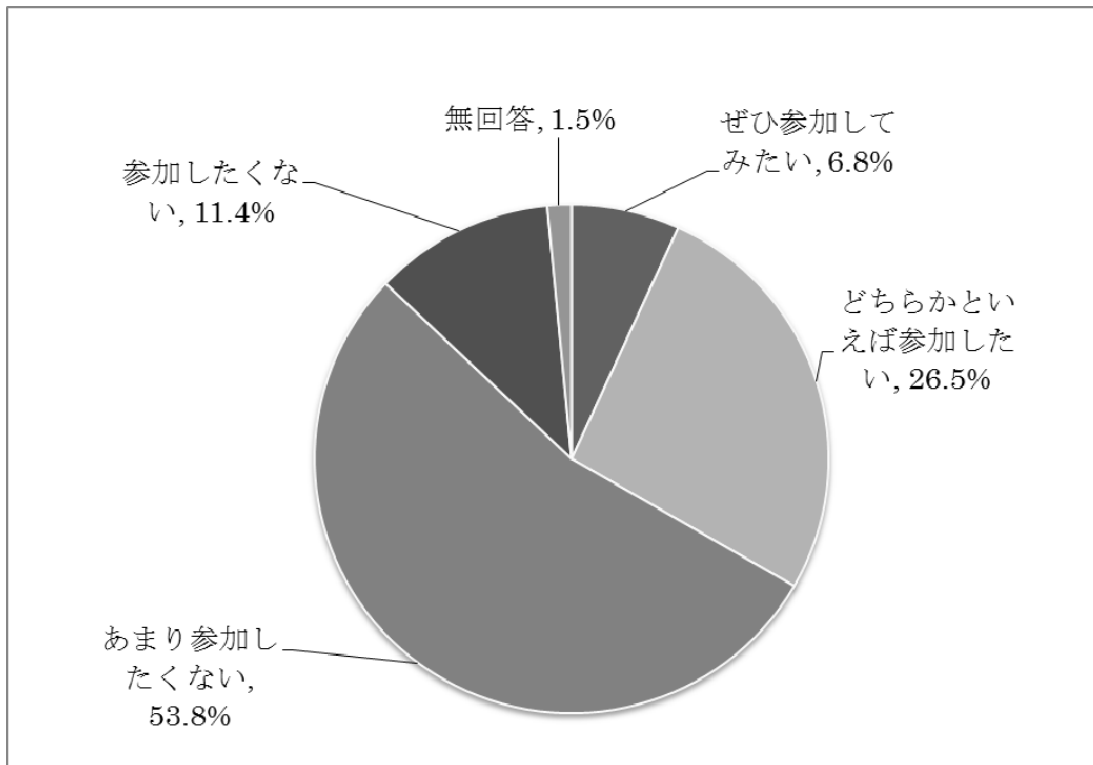


		回答者数	テレビ、ラジオ等マスメディアによる暴力追放を内容とする広報	住民の目に触れやすい場所へのポスターや懸垂幕などの掲示	より多くの住民が参加できる暴追大会の開催	暴力追放に向けた、広範囲へのビラやチラシ等の配布	その他	無回答
全体		132人	55.3%	18.2%	11.4%	11.4%	0.8%	3.0%
性別	男性	43人	51.2%	9.3%	18.6%	16.3%	0.0%	4.7%
	女性	89人	57.3%	22.5%	7.9%	9.0%	1.1%	2.2%
年齢別	20歳代	13人	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	57.9%	21.1%	10.5%	10.5%	0.0%	0.0%
	40歳代	24人	50.0%	25.0%	4.2%	16.7%	4.2%	0.0%
	50歳代	18人	72.2%	5.6%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	53.3%	20.0%	6.7%	13.3%	0.0%	6.7%
	70歳以上	28人	42.9%	10.7%	25.0%	14.3%	0.0%	7.1%
区別	門司区	13人	53.8%	7.7%	15.4%	7.7%	7.7%	7.7%
	小倉北区	24人	54.2%	29.2%	12.5%	4.2%	0.0%	0.0%
	小倉南区	27人	59.3%	14.8%	11.1%	11.1%	0.0%	3.7%
	若松区	13人	53.8%	15.4%	7.7%	23.1%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	33.3%	41.7%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%
	八幡西区	34人	64.7%	8.8%	11.8%	11.8%	0.0%	2.9%
	戸畑区	9人	44.4%	22.2%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%

暴力団排除意識の高揚にあたっての有効なPR手法としては、半数以上の回答者が「マスメディアによる広報」が有効と考えている。

次いで「住民の目に触れやすい場所へのポスターや懸垂幕などの掲示」が18.2%、「より多くの住民が参加できる暴追大会の開催」「暴力追放に向けた、広範囲へのビラやチラシ等の配布」が11.4%と前回調査と同様の傾向となっている。

問21 現在、県警察や市などの主催により、市内各地で暴力追放大会や暴追パレードが開催されていますが、あなたは参加する時間があるとした場合に、このような活動に参加することについてどのようにお考えですか？

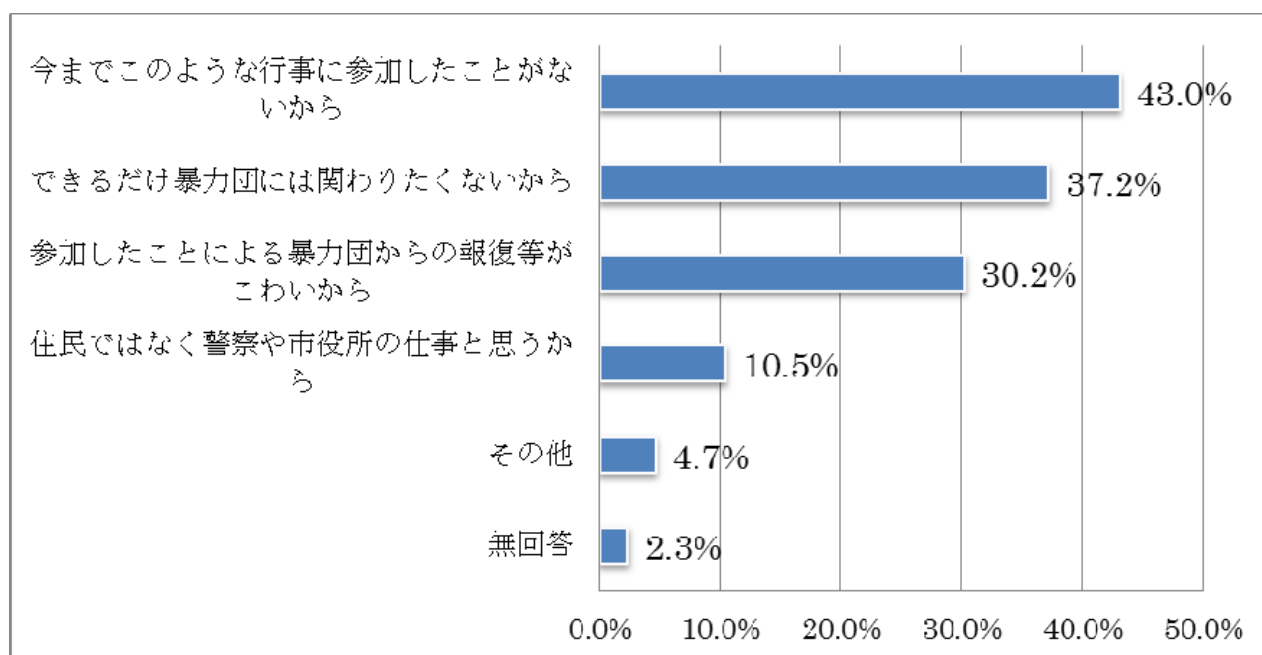


		回答者数	ぜひ参加してみたい	どちらかといえば参加したい	あまり参加したくない	参加したくない	無回答
全体		132人	6.8%	26.5%	53.8%	11.4%	1.5%
性別	男性	43人	16.3%	44.2%	32.6%	7.0%	0.0%
	女性	89人	2.2%	18.0%	64.0%	13.5%	2.2%
年齢別	20歳代	13人	7.7%	0.0%	69.2%	23.1%	0.0%
	30歳代	19人	0.0%	15.8%	68.4%	15.8%	0.0%
	40歳代	24人	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%
	50歳代	18人	0.0%	22.2%	72.2%	5.6%	0.0%
	60歳代	30人	10.0%	40.0%	36.7%	10.0%	3.3%
	70歳以上	28人	17.9%	28.6%	46.4%	3.6%	3.6%
区別	門司区	13人	0.0%	30.8%	46.2%	15.4%	7.7%
	小倉北区	24人	4.2%	25.0%	58.3%	12.5%	0.0%
	小倉南区	27人	11.1%	33.3%	40.7%	11.1%	3.7%
	若松区	13人	23.1%	38.5%	30.8%	7.7%	0.0%
	八幡東区	12人	8.3%	16.7%	58.3%	16.7%	0.0%
	八幡西区	34人	0.0%	23.5%	64.7%	11.8%	0.0%
	戸畑区	9人	11.1%	11.1%	77.8%	0.0%	0.0%

暴追大会や暴追パレードに対する参加意向としては、
 ○参加したい層 33.3% であるのに対し、
 ○参加したくない層 65.2% であった。
 前回調査と比較すると、「参加したい層」が29.8%から増加し、「参加したくない層」が、70.1%から減少する結果となった。

<問21で「3 あまり参加したくない」、「4 参加したくない」と答えた方のみご回答ください。>

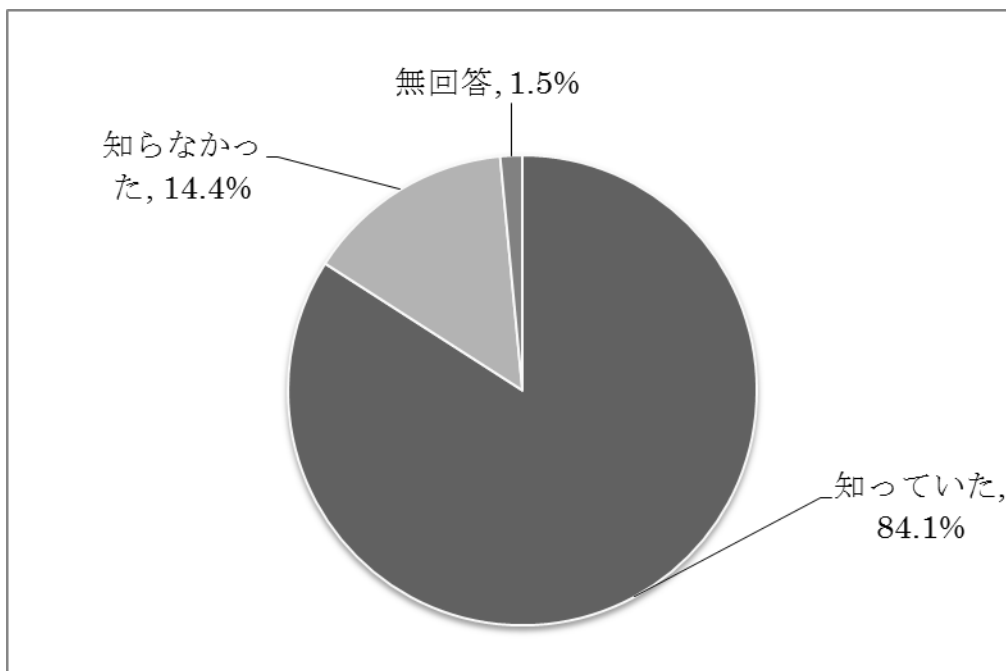
問22 その理由は何ですか？(複数回答可)



		回答者数	今までこのような行事に参加したことがないから	できるだけ暴力団には関わりたくないから	参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから	住民ではなく警察や市役所の仕事と思うから	その他	無回答
全体		86人	43.0%	37.2%	30.2%	10.5%	4.7%	2.3%
性別	男性	17人	23.5%	41.2%	29.4%	23.5%	0.0%	5.9%
	女性	69人	47.8%	36.2%	30.4%	7.2%	5.8%	1.4%
年齢別	20歳代	12人	50.0%	41.7%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	16人	31.3%	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	6.3%
	40歳代	16人	43.8%	31.3%	31.3%	12.5%	0.0%	0.0%
	50歳代	14人	42.9%	35.7%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%
	60歳代	14人	50.0%	28.6%	28.6%	14.3%	21.4%	0.0%
	70歳以上	14人	42.9%	35.7%	28.6%	14.3%	0.0%	7.1%
区別	門司区	8人	50.0%	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%
	小倉北区	17人	41.2%	35.3%	23.5%	5.9%	5.9%	5.9%
	小倉南区	14人	14.3%	42.9%	50.0%	14.3%	7.1%	0.0%
	若松区	5人	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	9人	55.6%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	11.1%
	八幡西区	26人	53.8%	46.2%	23.1%	7.7%	3.8%	0.0%
	戸畑区	7人	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%

暴追大会や暴追パレードに「参加したくない層」の理由としては、「今までこのような行事に参加したことがないから」が43.0%となっており、次いで「できるだけ暴力団には関わりたくないから」が37.2%、「参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから」が30.2%と、上位が前回調査とほぼ同じ傾向となった。

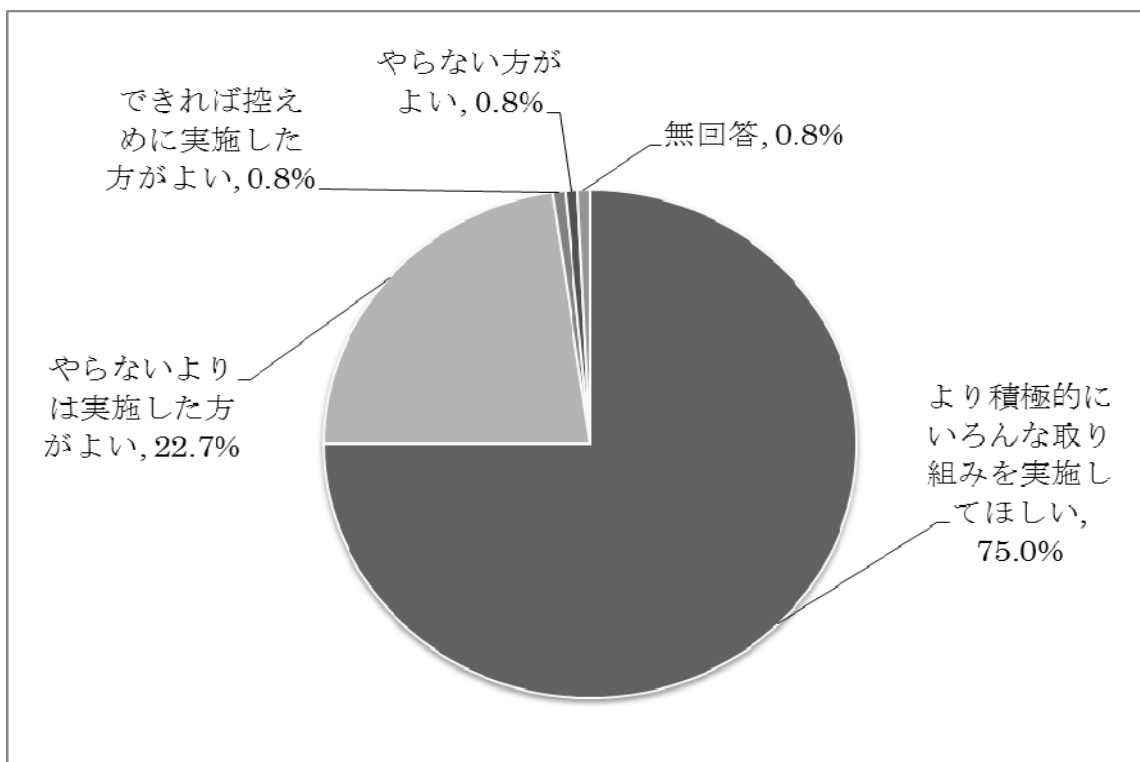
問23 青少年の非行問題として、暴走族への加入、大麻や危険ドラッグ等薬物乱用、出会い系サイトによる少女売春などが社会問題化していますが、あなたはこれらのいずれも、暴力団加入の予備軍になっていたり、暴力団の資金源となっている実態があることをご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		132人	84.1%	14.4%	1.5%
性別	男性	43人	90.7%	9.3%	0.0%
	女性	89人	80.9%	16.9%	2.2%
年齢別	20歳代	13人	69.2%	30.8%	0.0%
	30歳代	19人	78.9%	21.1%	0.0%
	40歳代	24人	75.0%	25.0%	0.0%
	50歳代	18人	88.9%	5.6%	5.6%
	60歳代	30人	93.3%	3.3%	3.3%
	70歳以上	28人	89.3%	10.7%	0.0%
区別	門司区	13人	84.6%	15.4%	0.0%
	小倉北区	24人	91.7%	8.3%	0.0%
	小倉南区	27人	77.8%	22.2%	0.0%
	若松区	13人	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	83.3%	16.7%	0.0%
	八幡西区	34人	76.5%	20.6%	2.9%
	戸畑区	9人	88.9%	0.0%	11.1%

青少年の非行問題が、暴力団への加入に繋がったり、暴力団の資金源となっていることに対する認知度は、84.1%と高く、前回調査の76.1%から増加した。

問24 現在、県警察では県内の中学・高校で暴力団排除講演を実施するなどの取り組みを実施しています。あなたはこれらの取り組みについて、どのようにお考えですか？



		回答者数	より積極的にいろいろな取り組みを実施してほしい	やらないよりは実施した方がよい	できれば控えめに実施した方がよい	やらない方がよい	無回答
全体		132人	75.0%	22.7%	0.8%	0.8%	0.8%
性別	男性	43人	76.7%	18.6%	2.3%	2.3%	0.0%
	女性	89人	74.2%	24.7%	0.0%	0.0%	1.1%
年齢別	20歳代	13人	46.2%	53.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	78.9%	15.8%	0.0%	5.3%	0.0%
	40歳代	24人	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	18人	94.4%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	28人	71.4%	21.4%	3.6%	0.0%	3.6%
区別	門司区	13人	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	24人	79.2%	20.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	27人	70.4%	29.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	13人	84.6%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	34人	76.5%	17.6%	0.0%	2.9%	2.9%
	戸畑区	9人	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%

県警察が実施している県内の中学・高校で実施している暴力団排除講演などの取り組みに対する回答者の意向としては、肯定的な見方（より積極的に実施してほしい＋やらないよりは実施した方がよい）が97.7%（前回94.1%）と大半を占めており、否定的な見方（できれば控えめに実施した方がよい＋やらない方がよい）が前回の5.2%から1.6%へ減少した。

<問24で「3 できれば控えめに実施した方がよい」、「4 やらない方がよい」と答えた方のみご回答下さい。>

問25 その理由は何ですか？(主なものを1つ選択してください)

		回答者数	何も知らない子ども達に、不必要な知識を与えることはよくないから	まだ中学生程度の年齢では、ちゃんとした理解ができなから	暴力団員の子ども達も一緒に学校生活している中で、子ども達同士が信頼関係を損なったり、当事者の子ども達に悪影響があると考えるから	ほとんどの子ども達には非行や暴力団加入問題は、関係のないことだから	学校や市の仕事ではなく、家庭で担うべき責任と考えるから	その他	無回答
全体		2人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
性別	男性	2人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	女性	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	1人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	1人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
区別	門司区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	1人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	八幡西区	1人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

県警察が実施している県内の中学・高校で実施している暴力団排除講演などの取り組みに対して否定的な見方の2人のうち1人が「何も知らない子ども達に、不必要な知識を与えることはよくないから」との意見で、1人は「無回答」だった。

問26 その他、暴力団対策をはじめとする暴力追放推進施策に関するご意見のある方は、ご自由に記入下さい。

45件のご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

- ・ 暴力団対策を専門とする警察官の増員、罰則を強化した法律、条例の制定。
- ・ 公的立場以外での活動は心理的に厳しいと思う。警察や役所が対策してほしい。
- ・ 警察の組事務所立入を強化してほしい。
- ・ 県警による中学・高校への暴力団排除講演などの取組みに関して、実施していることを知らなかった。この年代への講演などは非常に有効だと思うので今後ももっと実施してほしい。
- ・ 被害を受けた場合の専門相談窓口や相談ダイヤルを、皆が分かりやすい形でもっとテレビ、ラジオ等で広めてほしい。
- ・ 生活をしていく上で、沢山の人と出会う中に、きっと暴力団員もいると思う。学校の保護者などは一保護者として接するので、暴追といってもその線引きが難しい。ただ、その子どもまで同じ道（暴力団）に進まないような支援をしてほしい。
- ・ 暴追運動も大切だが、暴力団の事務所の場所や犯行手口など、市民が巻き込まれない自衛できる情報を県や市の発刊物で知りたい。
- ・ 周りから見ると北九州は暴力団が多く治安も悪いイメージがどうしてもあるので、暴力団排除の活動と共に、クリーンな北九州を、市内だけでなく、県外にもアピールするべきではないか。
- ・ 北九州は暴力団のせいで、他地域から見たらイメージが悪く、人が寄って来ない町になりかねないと思う。北九州の好感度をあげるためにも追放するべきだと思う。
- ・ これから社会に出る青少年たちへの指導は大人の責任だと思うので、根を断つ政策なり推進施策を、住民も力を出し共に取り組めるようにしていってらどうか。
- ・ 某中学校で、県警の方による暴力団排除の講演を夏休み直前に実施したのを一緒に拝聴した。暴力団の実態や覚醒剤に関連した誘い込みの手口など具体的につっこんだ内容で、生徒達も真剣に聞いていた。このような具体的なものを示していくことでその裏にある暴力団の狙いなどが理解できるのではないかと思う。
- ・ 暴力団関係者の起訴や逮捕などのニュースが以前よりよく報道されている印象があり、警察の「暴力団は許さない」という強い姿勢が伝わってくる感じがする。
- ・ 市民としては追放大会に参加するなどの能動的なものより、市広報などに掲載するなどして、受動的に情報を得られるようにすることも大事だと思う。

- 警察などがもっと積極的に行動すべきだと思う。
裁判所前での裁判員への声かけなどの事例が発生しているが、そういうことのないように、一般市民が巻き込まれないようにちゃんと対処すべきではないか。
- 暴力団に関わる危険な存在は、存在自体してはならないと強く思う。
- 暴力団が排除され、住みやすい北九州市になって欲しいと思う。
けれど、実際自分に関わることは怖いと思う矛盾した気持ちがある。
- 人口減少に歯止めがかからない要因に暴力団があると思う。
暴力追放を推進するのに一般人の私たちがもう少し積極的にならないといけない事がこのアンケートでもすごく分かった。
- 暴力団など、私たちの生活を不安にさせるものと一切の関係を持ちたくない。
彼らはどのような手口で私たちに近づくのか、万一、遭遇してしまった場合、どのような対処をしたらいいのか、詳しく知りたい。
- 暴力団離脱者に対する雇用支援などは必要なか疑問に思う。
- 暴力団から抜け出したくても、抜け出せない人がいるかもしれない。
どうにか抜け出せるよう、バックアップできないかと思う。
- 北九州は特に全国に先駆けて先手を打つような強い規制などを進んで行うべきだと思う。
- 最近は「みかじめ料」等を拒否する店が増えているのは良いことだと思う。
- 安全に生活ができる市にして頂けたら問題はないと思うが、すぐにできる内容ではないので、少しずつでも色々と良い方向にいけばよいと思っている。
- 国民全体で暴力団を排除できるように1人1人が積極的に運動などに参加し、より安全・安心に暮らせる国にしていけたらと思っている。
- 暴力追放に対しては賛成だが報復が怖いので、そうならないように警察と連携して色々できればと思う。

IV 全体考察

本市では、市民の皆様が安全に安心して暮らせる社会の確保と、社会経済活動の健全な発展に寄与することを目的として、平成22年7月に「北九州市暴力団排除条例」を施行し、県警察、市、市民や事業者の皆様が一丸となった暴力団排除を推進している。

今回、今後の暴力追放に向けた施策を効果的に推進するため、暴力団排除条例に関する認知度や暴力団排除に向けた市民ニーズの把握に関する設問などを中心に、アンケート調査を実施した。

【暴力団排除条例の認知度について】

- 福岡県暴力団排除条例（平成22年4月施行）の認知度が79.1%、北九州市暴力団排除条例（平成22年7月施行）の認知度は64.4%であり、前回調査同様にいずれも半数を上回っている。
- 福岡県暴力団排除条例では「特定の地域における暴力団の排除」「暴力団員に対する利益供与の禁止」に関する認知度が高く、北九州市暴力団排除条例では、「暴力団員に対する利益供与の禁止」に関する認知度が高くなっている。一方で、「条例の名前しか知らない」との回答が、県条例では21.2%、市条例でも32.9%あり、なかでも市条例の20歳代では60.0%と、半数以上は内容まで認知していない結果となった。

【暴力団排除についての関心度と暴排意識】

- 暴力団排除についての日頃の関心度は67.4%と、前回調査の78.4%から減少しているが、暴力団の存在そのものに対する否定的な見方は94.7%、会社や個人で暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用してめごとの処理を行うことに対しての否定的な見方が93.2%と、前回と同様に暴排意識が高い結果となった。

【暴力団排除施策に対する認知度】

- 市の安全・安心相談センターや県警察の暴力追放ダイヤル等の認知度は25.8%（前回調査26.9%）であった。

【暴力団排除施策に対するニーズ】

- 暴力団員等から不当要求などを受けた場合に、勇気をもって排除できる環境として、今以上に必要なものとしては、「警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援」（直接的な保護対策の支援）が、66.7%と前回調査と同様に高くなっており、次いで「相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい」14.4%となった。
- 暴力団排除に向けた行政の施策として、今後特に必要と考えるものは、「暴力団を非合法化するための法整備」が前回同様の1位、「暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の構成のための取り組み」が36.4%と、前回同様の2位となった。
- 今後、市民がより暴力団排除意識を高揚させるために必要なPR手法としては、「テレビ・ラジオ等マスメディアによる暴追を内容とする広報」が55.3%と高く、「住民の目に触れやすい場所へのポスター・懸垂幕の掲示」（18.2%）や「より多くの住民が参加できる暴追大会の開催」（11.4%）といったニーズが前回調査同様に一定数あった。また、今回調査では「暴力追放に向けた、広範囲へのビラやチラシ等の配布」が前回の4.5%から11.4%に増加した結果となった。

- 県警察や市主催による暴追大会や暴追パレードへの参加意向としては、「参加したくない層」が65.2%と前回調査の70.1%から減少したが、参加したくない理由として、「できるだけ暴力団には関わりたいくない」、「参加したことによる暴力団からの報復等がこわい」といった不安を感じる回答が、67.4%と多い結果となった。一方で、「住民ではなく警察や市役所の仕事と思う」が前回調査の24.5%から10.5%へ大幅に減少し、住民自身による暴力追放意識が高まっていることが考えられる。

【青少年を暴力団から守るための取り組みについての意識】

- 青少年の非行問題として、暴走族への加入、大麻や危険ドラッグ等薬物乱用、出会い系サイトによる少女売春などが、いずれも暴力団加入の予備軍になっていたり、暴力団の資金源になっている実態があることについての認知度は84.1%と前回調査の76.1%と同様に高かった。また現在、県内の中学・高校で実施中の県警察による生徒への暴排教育については、97.7%と前回調査の94.1%同様に回答者の多くが肯定的な見方である。

【まとめ】

- 暴力団排除条例について、県条例、市条例ともに6割以上が認知しているが、安全・安心相談センターや県警察の暴力追放ダイヤル等、相談窓口の認知度向上のため、広範囲へのビラやチラシ等の配布や、マスメディア等を活用したPRを行うなど、今後とも引き続き啓発に努めていく必要がある。
- 「最近5年間の実生活」の中で、暴力団に対する脅威を感じたことが「ない」の回答割合が、前回調査より増加し、「ある」の回答割合が減少している。市民の間に、徐々に安心感が広がってきていることが伺われる。
- 回答者全体の暴力団排除意識は非常に高い結果となった。また、暴追大会や暴追パレードなどへの直接の参加意向は、「参加したい層」が前回調査より増加しており、参加意向が徐々に高くなってきている。
- 暴力団排除に向けた行政の施策に関しては、前回同様に「国の法整備」や「暴力団加入阻止のための青少年育成や犯罪者の更生」、「より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した安全対策の強化」へのニーズが高くなっている。また、今回調査では「暴力団事務所などに関する情報公開」が、前回調査より増加した結果となった。

【市政モニターに関すること】

市民文化スポーツ局市民総務部広聴課(TEL:582-2527)

【アンケートに関すること】

市民文化スポーツ局安全・安心相談センター(TEL:582-2427)